KENWOOD

オーディオビデオコントロールセンター

KRF-V9300H

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、製品を安全に正しくお使いいただくため、取扱説明書の「安全上のご注意」、本文をよくお読みのうえ、説明の通りお使いください。
取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

Auto Room EQ

© B60-5742-00/00 (JW)

もくじ

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

ご使用になる前に

接続のしかた

本機の設定

音楽や映画を鑑賞する

臨場感を楽しむ

ラジオ放送を聴く

録音/録画する

音を調節する

便利な機能

故障かな?と思ったら

本機の特長

■ HDMI ™(High-Definition Multimedia Interface)リピーター機能

ハイビジョン映像と最新の高音質オーディオ信号を楽しめるHDMIインターフェースに対応。ブルーレイディスクなどに記録された高画質な映像や、ドルビー TrueHD、DTS-HDマスターオーディオ、マルチチャンネルPCMなどの高音質な音声を楽しむことができます。

■ ビデオアップコンバート機能

アナログ映像信号をHDMI端子へ出力できるビデオアップコンバート機能を搭載。テレビと本機を市販のHDMIケーブル1本で接続するだけで、すべての映像信号をHDMI映像信号に変換して出力できます(テレビにHDMI端子がある場合)。また、同時にアナログ映像信号をハイビジョン信号へ変換する「アップスケーラー」機能も搭載していますので、高画質な映像を楽しめます。

■ 高音質音楽再生「ピュアオーディオモード」

音楽信号をより忠実に再現する高音質再生機能です。ディスプレイを消灯し、アナログビデオ回路をオフすることによってオーディオ回路への干渉を抑えます。また、音楽信号に合わせて最適なリッスンモードを自動的に選択します。

■ iPod接続端子

iPod接続ケーブルPNC-iP120(別売)を使ってiPodを接続し、本機からiPodをコントロールできます。音楽は本機に接続されたスピーカーから聴くことができ、映像は本機に接続しているテレビで楽しむことができます。

■ Auto Room EQ(オートルームEQ)

付属のセットアップ用マイクでリスニングルームの測定をして、スピーカーの設定を自動的に行います。また、スピーカーの特性やリスニングルームの環境に合わせた音質補正も自動的に行います。

■ オーディオディレイ(リップシンク)機能

映像と音声のずれを補正することができます。また再生機器、本機、およびテレビをすべてHDMIで接続している場合には、自動補正することもできます。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。記載している表示・図記号についての内容を良く理解してから本文をお読みになり、必ずお守りください。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用･故障･その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
● お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
● 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

⚠警告

異常のときは

異常が起きた場合は電源プラグを抜く
内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災･感電の原因となります。煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください

電源コード・プラグについて

電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災･感電の原因となります。
電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

設置について

交流 100 ボルトの電圧で接続する
この機器は、交流 100 ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない
風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災･感電の原因となります。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない
水がこぼれて中に入ると、火災･感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついたものを置かない
本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

使用について

水をかけたりぬらしたりしない
火災･感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない
感電の原因となります。

お手入れ

電源プラグを定期的に清掃する
電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災･感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

⚠注意

異常のときは

落下した機器は電源プラグを抜く
機器を落としたり、カバーやケースが壊れたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災･感電の原因となることがあります。

電源コード・プラグについて

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない
電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災･感電の原因となることがあります

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災･感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

設置について

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない
油煙や湿気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。火災･感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない
窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

機器に乗らない
機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く
移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、スピーカーコード、その他接続コード類をすべてを外す。コードが傷つき、火災･感電の原因となることがあります。

機器の接続は取扱説明書に従う
関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

⚠注意

使用について

長期間使用しないときは電源プラグを抜く
旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。火災の原因となることがあります。

機器の内部に異物を入れない
機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。火災･感電の原因となることがあります。

機器のケースを開けたり改造したりしない
内部には電圧の高い部分があり、火災･感電の原因となることがあります。点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

ディスク挿入口に手を入れない
手がはさまれて、けがの原因となることがあります。特にお子さまにはご注意ください。

レーザー光源をのぞき込まない
レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

ひび割れディスクは使わない
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。ディスクは機器内で高速に回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池について

電池の取り扱いに注意する
次のことを、必ず守ってください。
･極性表示（プラス”＋”とマイナス”－”の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
・指定の電池を使用する。
・使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
・新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
・違う種類の電池を混ぜて使用しない。
・充電池と乾電池を混ぜて使用しない。
・電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。
電池は誤った使い方をすると、破裂、液もりにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。
液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。
万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

音量について

はじめから音量を上げすぎない
突然大きな音が出て、聴力傷害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聴かない
聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

お手入れ

お手入れの際は電源プラグを抜く
お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

定期的に内部の点検、清掃をする
３年に１度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄のケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

取扱説明書の読みかた

本書では主にリモコンで操作する説明を記載しています。本体でも操作できる機能については、説明の冒頭にイラストで示しています。本体の[VOLUME CONTROL]、[MULTI CONTROL]、[INPUT SELECTOR]、および[LISTEN MODE]つまみは、左右に回して使います。

スピーカーの設定 -"Manual Setup"-

各スピーカーを手動で設定する場合や、オートセットアップで設定された内容を変更する場合におこないます。

SETUP
ENTER
MULTI CONTROL ◄/►/▼/▲

操作で使うキーやつまみを紹介しています。

リモコンのみで操作する機能の説明には、リモコンのイラストだけを記載しています。また本体のみで操作する場合は本体のイラストだけを記載しています。

スピーカー構成 -"SP Setup"-

スピーカー有無やスピーカーのサイズを選びます。

1 マニュアルセットアップモードに入る。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"Manual Setup"を選ぶ。

Manual Setup

[ENTER]を押す。

2 "SP Setup"を選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"SP Setup"を選ぶ。

SP Setup

[ENTER]を押す。

操作するキーには、カッコ[ ]を付けています。

3 各スピーカーの有無や大きさを選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►]でスピーカーを選ぶ。

FRNT Large

[MULTI CONTROL ▲/▼]で設定する。

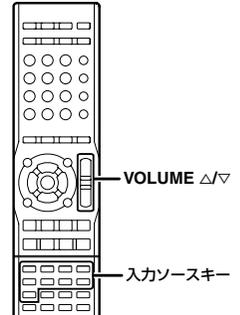
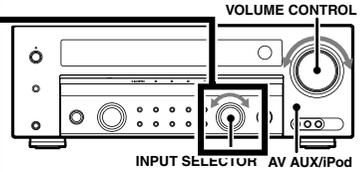
FRNT Normal

上記の操作を繰り返してすべてのスピーカーの設定をします。

スピーカー	表示	設定
サブウーファー	"SUBW On"	サブウーファーを接続しています。
	"SUBW Off"	サブウーファーを接続していません。
フロントスピーカー	"FRNT Large"	大きめサイズのフロントスピーカー
	"FRNT Normal"	普通サイズのフロントスピーカー

キーを操作することで項目を選ぶ場合には、選べる項目が表になっています。

つづく

次のページに操作説明の続きがあります。

本体のつまみのイラストには、左右に回して操作することを示す矢印が付いています。

再生する

VOLUME CONTROL
INPUT SELECTOR
AV AUX/iPod
VOLUME △/▽
入力ソースキー

1 再生する機器を選ぶ。

リモコンの各入力ソースキーを押します。
または本体の[INPUT SELECTOR]つまみと[AV AUX/iPod]キーで選びます。

2 選んだ機器を操作して再生を始める。

iPodの操作は本機からできます。(「iPodを使う」→44)

3 [VOLUME △/▽]で音量を調節する。

4 色々な臨場感を楽しむ。

さまざまなリッスンモードを楽しむことができます。(「リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ」→47)
また、選んだ入力ソースに合わせて細かい調整もできます。(「再生するソースに合わせた調整」→56)

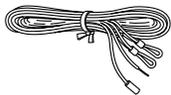
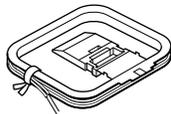
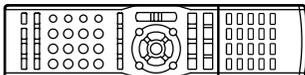
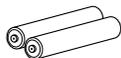
補足説明や、操作上の制限、または操作のヒントなどが書かれています。

- 本体の[INPUT SELECTOR]つまみではAV AUXとiPod は選べません。本体の[AV AUX/iPod]キーかリモコンの[AV AUX]または[iPod]キーで選んでください。

- 本書のディスプレイのイラストや操作例は、操作説明用に作成したものです。実際の操作と異なる場合があります。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM室内アンテナ（1本）

AMループアンテナ（1個）

リモコン（1個　型番：RC-R0923J）

リモコン用単4形乾電池（2本）

乾電池は梱包材に差し込まれています。

セットアップ用マイク（1個　コード長約5m）

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い環境を守りましょう。

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

本機で使用できるiPodについて

- 本機にiPodを接続するには、iPod接続ケーブルPNC-iP120（別売）が必要です。
- 本機にiPodは付属していません。別途、iPodを購入してください。
- 本機に接続できるiPodは以下の通りです。（2008年7月現在）

コントロール可能iPod
iPod 第4世代（クリックホイール）
iPod mini
iPod 第4世代（カラーディスプレイ）
iPod nano 第1世代
iPod nano 第2世代
iPod video（iPod 第5世代）
iPod photo
iPod nano 第3世代（video）
iPod classic
iPod touch*

* iPod touchは"ミュージック"のみ対応しています。

- お使いのiPodのソフトウェアを最新のバージョンにアップデートしてください。
- iPodの機種やソフトウェアバージョンによっては、一部の機能が正常に動作しない場合があります。
- 本機はiPodに電源を供給し、音楽を再生しながら充電が出来ます。ただし、本機の電源がオンになっている必要があります。
- iPodの映像出力設定（"TV出力"や"TV信号"の設定）についてはiPod側で行ってください。

取り扱い上のお願い

- 必ずiPodに付属の取扱説明書をご覧ください。
- iPodの使用状況によっては、保存してある内容が失われることがあります。保存してある内容が失われたことによる損害については、当社は一切その責任を負いませんので、ご了承ください。

本機で表示できる文字について

- 本機に表示できる文字の種類は、英数字、半角カタカナ、および一部の記号です。ひらがなおよび全角カタカナは、半角カタカナに変換されて表示されます。また、アクセント文字はアルファベットに変換されて表示されます。表示できない文字は"＊"と表示されます。

各部のなまえと働き

本体

❶ ⏻ (電源) キー
スタンバイインジケーター
本機をオンにしたりスタンバイ状態にしたりします。
スタンバイ状態のときはスタンバイインジケーターが点灯します。

❷ ディスプレイ

❸ インジケーター
HDMI インジケーター
HDMIリンクをオンにすると青色に点灯します。

DOLBY DIGITAL インジケーター
DOLBY DIGITAL 信号が入力されたときに点灯します。

DTS インジケーター
DTS信号が入力されたときに点灯します。

HIGH DEFINITION インジケーター
HDMI経由で下記の信号が入力されたときに点灯します。
－Dolby Digital Plus
－Dolby True HD
－DTS Master Audio
－DTS High Resolution Audio

STRAIGHT DECODE インジケーター
ストレートデコードモードをオンにしているときに点灯します。

❹ リモートセンサー

❺ VOLUME CONTROLつまみ

❻ PHONES 端子

❼ SPEAKERS A/B/OFF キー ➞ 40
スピーカーを切り換えます。

❽ LISTEN MODE つまみ ➞ 47
リッスンモードを切り換えます。

❾ MULTI CONTROL つまみ
設定項目を選択します。

⏮/⏭ つまみ
iPodの曲をスキップします。 ➞ 45
プリセットしたラジオ放送局を呼び出します。 ➞ 53

MULTI CONTROL (▼/▲) キー
設定項目を選択します。
ラジオ放送局を選局します。 ➞ 52

❿ SETUP キー
本機の設定をします。

⓫ ENTER キー
選択した項目を決定します。

⓬ DOLBY VIRTUAL キー ➞ 51
ドルビーバーチャルスピーカー機能およびドルビーヘッドホン機能をオン/オフします。

⓭ STRAIGHT DECODE キー ➞ 41
ストレートデコードモードをオン/オフします。

⓮ BAND キー ➞ 52
放送バンドを切り換えます。

►/II キー ➞ 45
iPodの音楽や映像を再生/一時停止します。

⓯ AUTO/MONO キー
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を切り換えます。 ➞ 52
録音モードを切り換えます。 ➞ 54

⓰ INPUT MODE キー ➞ 40
入力モードの設定をします。

⓱ ACTIVE EQ キー ➞ 55
ACTIVE EQ 機能をオン/オフします。

⓲ INPUT SELECTOR つまみ
入力ソースを選びます。

⓳ PURE AUDIO MODE キー ➞ 42
ピュアオーディオモードをオン/オフします。

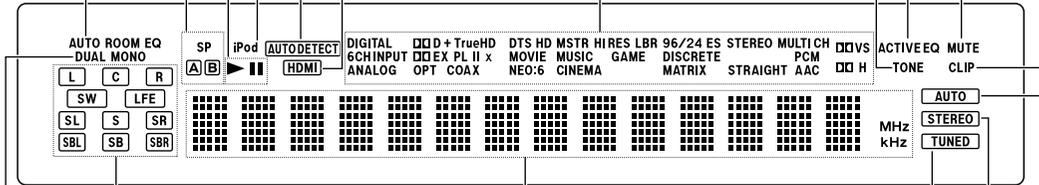
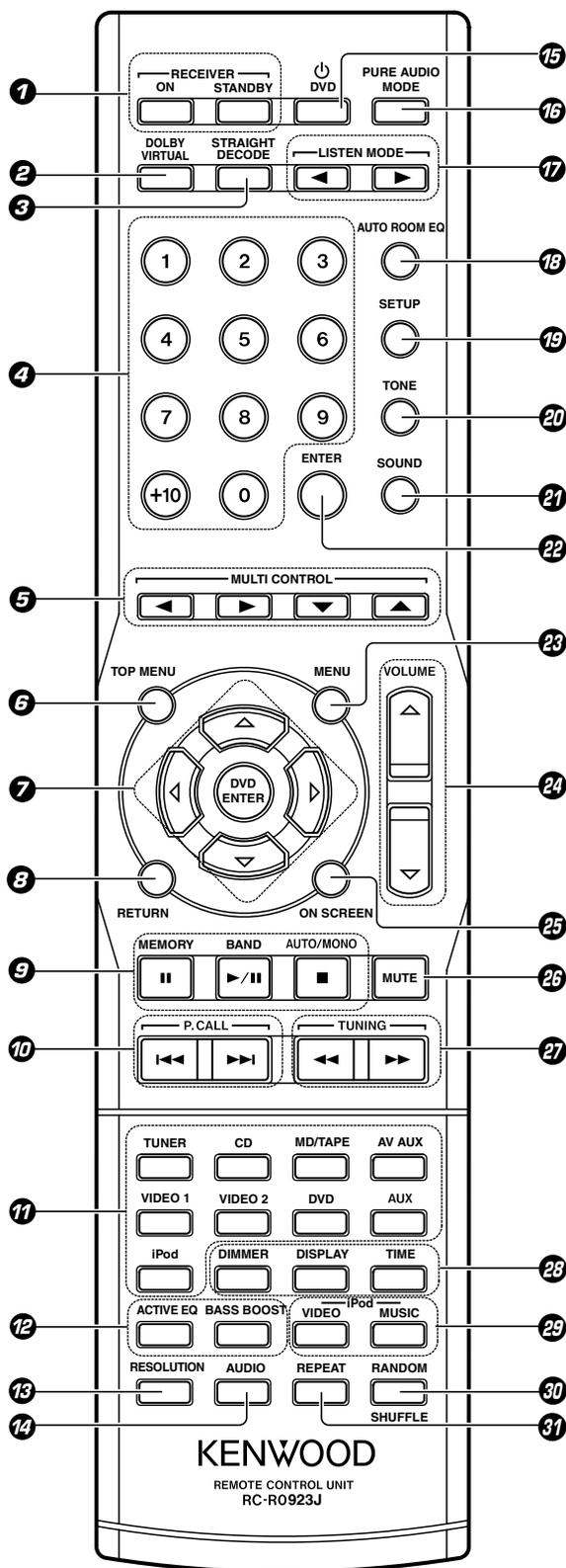
⓴ AV AUX/iPod キー
入力ソースをAV AUXまたはiPodに切り換えます。

㉑ AV AUX 端子
ビデオカメラやゲーム機などを接続できます。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このときリモコンで本機をオンにできます。

ディスプレイ

► / ❚❚
iPodを再生しているときは、►が点灯します。再生を一時停止しているときは、❚❚が点灯します。
iPod
iPodが接続されているときに点灯します。
ACTIVE EQ
Active EQがオンのときに点灯します。
MUTE
ミュートがオンのときに点滅します。
SP(スピーカー)A/B
使用するフロントスピーカーが点灯します。
AUTO DETECT
入力モードの設定で"Auto"に設定しているときに点灯します。
HDMI
HDMIのソース機器が認識されたときに点灯します。
TONE
トーンの設定がオンのときに点灯します。
CLIP
入力レベルが高すぎるときに点灯します。
AUTO ROOM EQ
Auto Room EQで測定しているときや、ROOM EQがオンのときに点灯します。
リッスンモード/入力信号フォーマットインジケーター
AUTO ROOM EQ
DUAL MONO
SP
iPod
AUTO DETECT
HDMI
DIGITAL
6CH INPUT
ANALOG
D + TrueHD
EX PL II x
OPT COAX
DTS HD MSTR HI RES LBR 96/24 ES
MOVIE MUSIC GAME DISCRETE
NEO:6 CINEMA MATRIX
STEREO MULTI CH
PCM
STRAIGHT AAC
VS
H
ACTIVE EQ MUTE
TONE CLIP
L C R
SW LFE
SL S SR
SBL SB SBR
MHz
kHz
AUTO
STEREO
TUNED
インプットチャンネルインジケーター
再生している音楽や映像についてどんな音声信号(チャンネル)が入力されているか表します。
文字表示部
TUNED
ラジオ放送を受信したときに点灯します。
DUAL MONO
デュアルモノ音声信号が入力されたときに点灯します。
STEREO
ステレオ放送を受信したときに点灯します。
AUTO
選局方法がオートのときに点灯します。

リモコン

❶ **RECEIVER ON キー**
本体の電源をオンにします。

RECEIVER STANDBY キー
本体をスタンバイ状態にします。

❷ **DOLBY VIRTUAL キー** →51
ドルビーバーチャルスピーカー機能およびドルビーヘッドホン機能をオン/オフします。

❸ **STRAIGHT DECODE キー** →41
ストレートデコードモードをオン/オフします。

❹ **数字 キー**
プリセットしたラジオ放送局を呼び出します。
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❺ **MULTI CONTROL ◄/►/▼/▲ キー**
設定項目を選択します。

❻ **TOP MENU キー**
iPod のメニューを表示します。→44
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❼ **△/▽/◁/▷ キー**

DVD ENTER キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❽ **RETURN キー**
iPodのメニューの操作に使います。
→44
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❾ **MEMORY キー** →52
ラジオ放送局をプリセットします。

II キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

BAND キー →52
放送バンドを切り換えます。

►/II キー
iPodの音楽や映像を再生/一時停止します。
→45
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

AUTO/MONO キー →52
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を切り換えます。

■ キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

❿ **P.CALL ◄◄/►► キー**
プリセットしたラジオ放送局を呼び出します。
→53
iPodの曲をスキップします。 →45
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

⓫ **入力ソースキー**
入力ソースを選びます。

⓬ **ACTIVE EQ キー** →55
ACTIVE EQ機能をオン/オフします。

BASS BOOST キー →55
低音を強調します。

⓭ **RESOLUTION キー** →42
アナログ映像をアップコンバージョンしてHDMI出力するときの映像の解像度を切り換えます。

⓮ **AUDIO キー**
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

つづく

⑮ ⏻ DVD キー →60
ケンウッドのDVDプレーヤーをオン/オフします。

⑯ PURE AUDIO MODE キー →42
ピュアオーディオモードをオン/オフします。

⑰ LISTEN MODE ◄/► キー →47
リッスンモードを切り換えます。

⑱ AUTO ROOM EQ キー →28
スピーカーのオートセットアップをします。

⑲ SETUP キー
本機の設定をします。

⑳ TONE キー →55
トーンの調整をします。

㉑ SOUND キー →56
音質や音場を調節します。

㉒ ENTER キー
選択した項目を確定します。

㉓ MENU キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

㉔ VOLUME △/▽ キー

㉕ ON SCREEN キー
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

㉖ MUTE キー →59
一時的に音を消します。

㉗ TUNING ◄◄/►► キー
ラジオ放送局を選局します。 →52
iPodの曲を早送り/早戻しします。→45
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

㉘ DIMMER キー →59
ディスプレイやインジケーターの明るさを切り換えます。

DISPLAY キー
HDMIの入力信号とそのチャンネル数を表示します。
(HDMI入力の設定を有効にしているときのみ)
→43
iPodの曲情報を表示します。 →45

TIME キー →45
iPodの時間情報を表示します。

㉙ iPod VIDEO キー →44
iPod の映像メニューを選択します。

iPod MUSIC キー →44
iPodの音楽メニューを選択します。

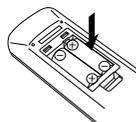
㉚ RANDOM / SHUFFLE キー
iPodのシャッフル再生をします。→45
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

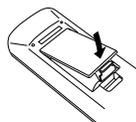
㉛ REPEAT キー
iPodのリピート再生をします。 →45
ケンウッドのDVDプレーヤーを操作するときに使います。*

- * DVDプレーヤーの操作については「ケンウッドのDVDプレーヤーをリモコンで操作する」→60 をご覧ください。

電池の入れかた

1 ふたを開ける。

2 電池を入れる。

単4形乾電池(R03)2本を極性(+、−)のマークにしたがって入れてください。

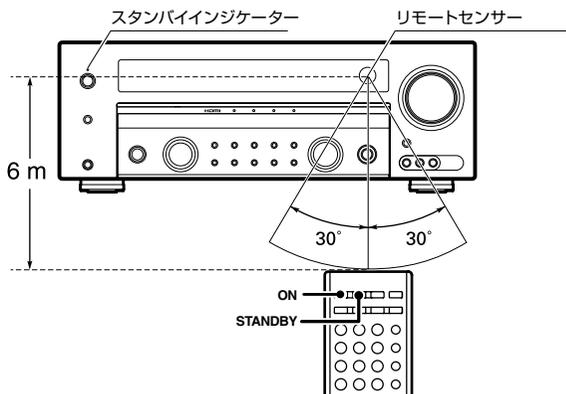
3 ふたを閉める。

- 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。
- 電池を交換するときは、2本とも新しい乾電池と交換してください。

リモコンの操作

リモコンを本機のリモートセンサーに向けて使用してください。

本機がスタンバイ状態のとき（スタンバイインジケーターが点灯）に、[ON]キーを押すと、電源がオンになります。また、[STANDBY]キーを押すと電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

リモコンで接続機器を操作するときは、最初に入力ソースキーを押してリモコンをその入力ソースのモードにします。それから操作キーを押してください。

操作範囲のめやす

接続について

> ⚠注意
> 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

関連機器を接続するときは、関連機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

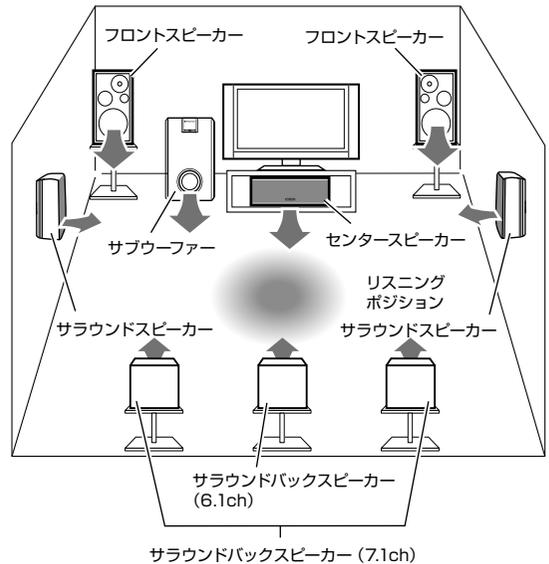
- 接続をするときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音や映像が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「マイコンをリセットするには」→62 を参照してマイコンをリセットしてください。

> ⚠注意
> 機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

> ⚠注意
> 機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。
> - あおむけや横倒し、逆さまにして使用しないでください。
> - 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
> - 風通しの悪い狭い所で使用しないでください。
> - 本機は冷却ファンを使用しています。ベッド、ソファー、じゅうたんなどの上に機器を設置しないでください。ほこりを吸い込んで火災の原因となることがあります。
> - 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。
>   **側面：10cm以上**
>   **背面：10cm以上**

スピーカーの設置のしかた

フロントスピーカー

前面左右に設置します。左右対称が理想です。リッスンモードに関わらず必ず使用します。

センタースピーカー

前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。

サラウンドスピーカー

座る位置の真横または少し後ろに、またできるだけ高い位置（聴く人に耳の位置より1m上方）に設置します。左右対称が理想です。音の移動感や臨場感などを再現します。

サブウーファー

一般的に部屋の前方中央のフロントスピーカー付近に置きます。迫力のある重低音効果を楽しめます。他のスピーカーと比べて指向性が強くありませんので、お部屋のレイアウトに合わせて重低音がよく聞こえる位置に設置してください。

サラウンドバックスピーカー

視聴位置の後ろでサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。サラウンドバックスピーカーを1つ接続した場合は、6.1チャンネルサラウンドシステムになります。また、サラウンドバックスピーカーを2つ接続した場合は、7.1チャンネルサラウンドシステムになります。

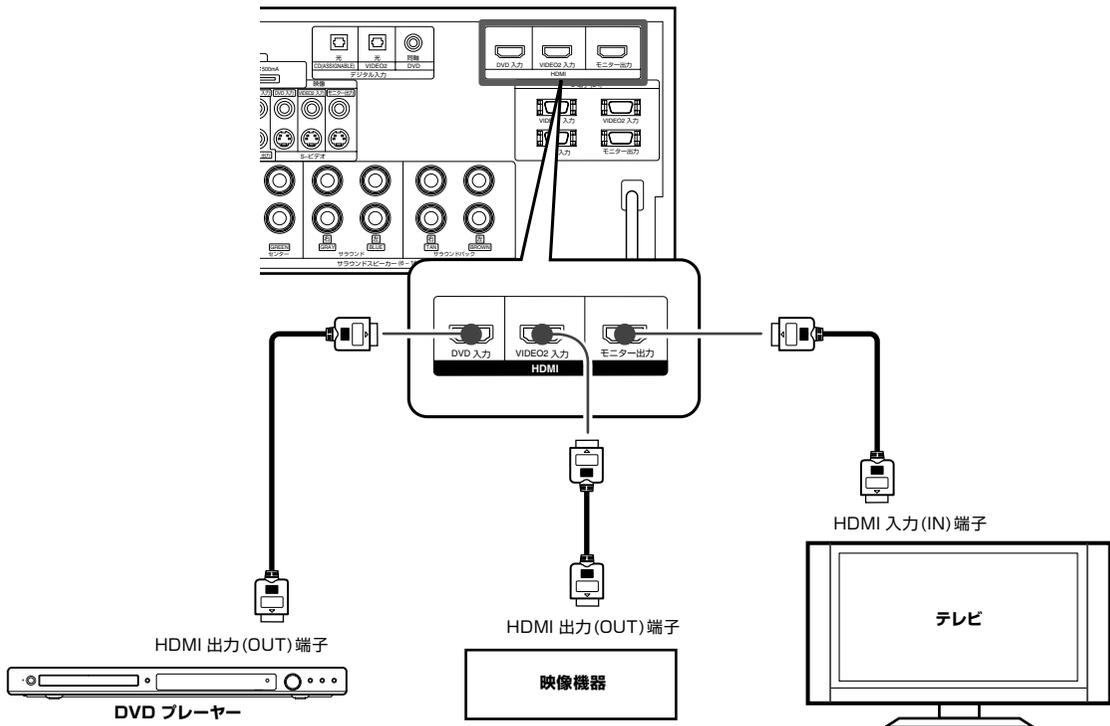
- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーやサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。

HDMI端子のある機器の接続

HDMI接続をすると、HDMIケーブルのみで映像信号と音声信号をデジタルで伝送することができます。ブルーレイディスクなどに記録された高画質な映像や、ドルビーTrueHD、DTS-HDマスターオーディオ、マルチチャンネルPCMなどの高音質な音声を楽しむことができます。また、テレビの電源と本機の電源を連動させたり、テレビから本機の音量を調節したりすることもできます。（「HDMIの設定」→36）

1 HDMIケーブルで、本機のHDMI入力端子（DVD入力やVIDEO2入力端子）とDVDプレーヤーなどの再生機器のHDMI出力端子を接続する。

2 HDMIケーブルで、本機のHDMIモニター出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続する。

DVD 入力
VIDEO2 入力
モニター出力
HDMI
HDMI 入力(IN)端子
テレビ
HDMI 出力(OUT)端子
映像機器
HDMI 出力(OUT)端子
DVD プレーヤー

HDMI機能を使うには

HDMI機能を使うためにはHDMIの設定が必要です。「HDMI入力の設定」→36 を参照してHDMIの入力を有効にしてください。

映像信号の流れ

HDMI 入力端子から入力したデジタル映像は、HDMIモニター出力端子からのみ出力されます。また、ビデオアップコンバージョン機能により、ビデオ端子、Sビデオ端子、およびD端子から入力した映像信号を、HDMIモニター出力端子から出力することができます。（「ビデオアップコンバージョン機能」→17）

音声信号の流れ

HDMI 入力端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーから出力されます。またHDMIの設定により、本機に接続されたテレビから出力することもできます。（「HDMIの設定」→36）

- DVI端子のあるテレビを接続するには、HDMI/DVI変換ケーブルが必要です。また、テレビがHDCP(High-bandwith Digital Contents Protection)に対応している必要があります。ただし、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。
- 接続にはHDMI認証のカテゴリ2ケーブル（High Speed HDMI ™ Cable）をお使いください。
- HDMIケーブルで接続された機器間で認証が必要なため、映像や音声が出るまでに時間がかかることがあります。
- 音声や映像が正常に出力されない場合は、接続されたすべての機器の電源を一度切って、もう一度入れ直してください。

テレビの接続

1 下図の接続 B、C、D、E のいずれかの中から必要な接続を選んでテレビに接続する。

接続機器の音声接続と映像接続は、接続する機器のページをご覧ください。

本機は映像信号をアップコンバージョンできます。例えば本機とテレビをHDMI接続する（接続B）だけで、その他の映像入力信号をHDMIモニター出力より出力します。詳しくは「ビデオアップコンバージョン機能」→17をご覧ください。

2 テレビの音声を本機に接続しているスピーカーから出力したいときは音声接続をする。

接続A（デジタル）、またはF（アナログ）から選んで接続をする。

AACなどのデジタルサラウンド放送をサラウンド環境で楽しみたいときは、デジタル接続（接続A）をしてください。

光
CD(ASSIGNABLE)
VIDEO2
同軸
DVD
デジタル入力

DVD 入力
VIDEO2 入力
モニター出力
HDMI

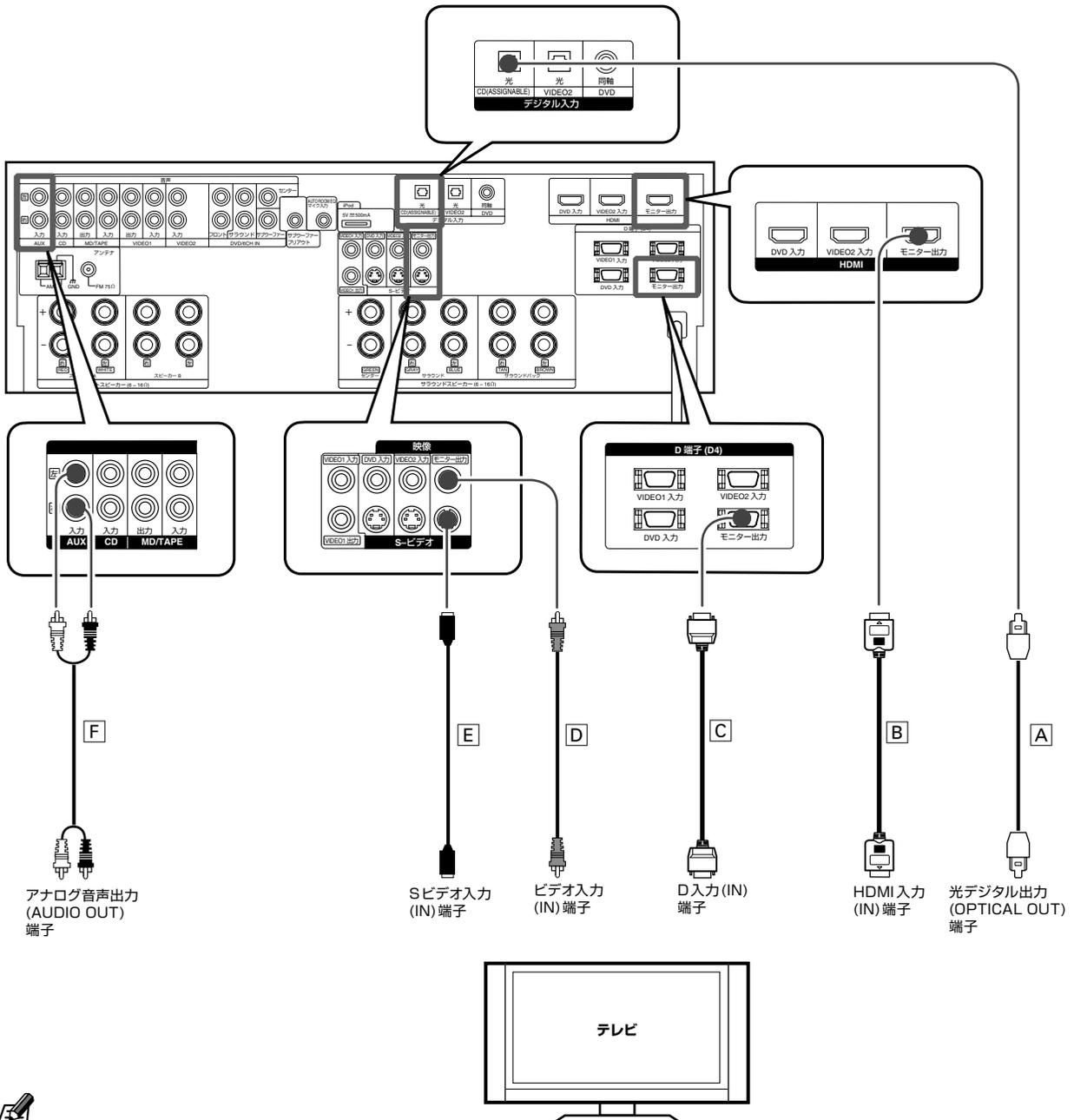
映像
VIDEO1 入力
DVD 入力
VIDEO2 入力
モニター出力
VIDEO1 出力
S-ビデオ

D 端子 (D4)
VIDEO1 入力
VIDEO2 入力
DVD 入力
モニター出力

左
入力
AUX
CD
出力
MD/TAPE

F
E
D
C
B
A

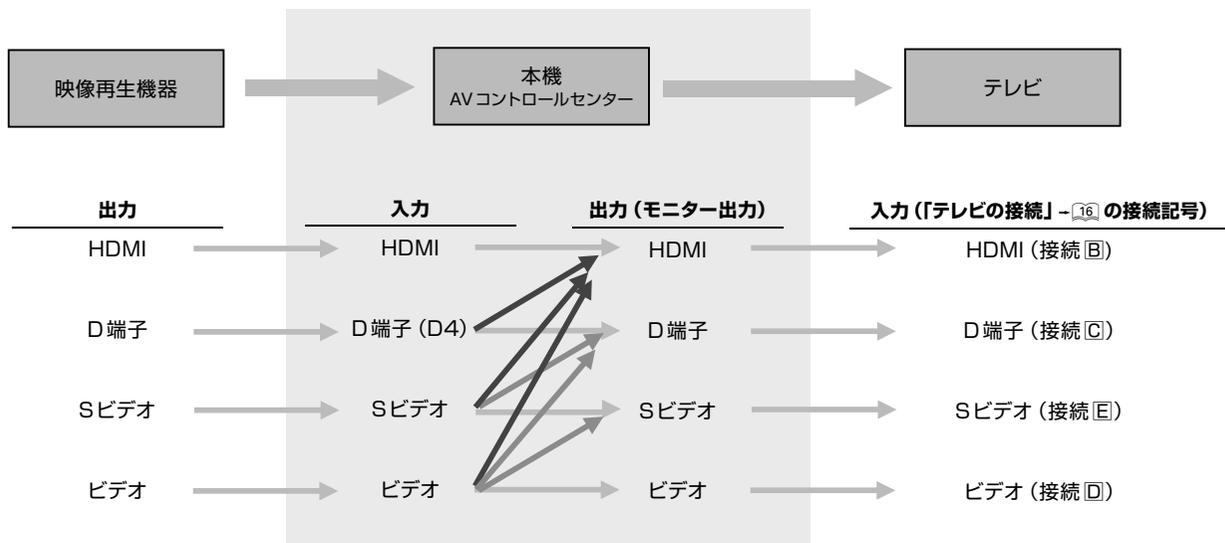
アナログ音声出力(AUDIO OUT)端子
Sビデオ入力(IN)端子
ビデオ入力(IN)端子
D入力(IN)端子
HDMI入力(IN)端子
光デジタル出力(OPTICAL OUT)端子

テレビ

- テレビにHDMI端子がない場合は、HDMI映像は見られません。

ビデオアップコンバージョン機能

本機に入力されたアナログ映像信号をテレビの接続に合わせてHDMIや別の映像信号に変換して出力する機能です。

本機は以下の映像信号に対応しています。

- デジタル映像信号：HDMI
- アナログ映像信号：D端子、Sビデオ、ビデオ

- HDMIモニター出力から映像を出すには、HDMI入力の設定で映像入力を有効にしておきます。（「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」→36）
- ビデオおよびSビデオの映像信号をD端子から出力するときは、D1になります。
- ビデオ、Sビデオ、およびD端子の映像信号をHDMI出力したときは解像度を切り換えられます。（「映像の解像度を切り換える」→42）
- ビデオテープレコーダーからの映像信号は、映像が乱れたり表示されなくなる場合があります。
- 変換された映像は、画質が劣化する（画面がちらつく、文字がにじむなど）場合があります。このような場合は、映像入力端子と同じ種類のモニター出力端子からテレビに出力してください。
- 本機はNTSCおよびPALのテレビフォーマットに対応しています。

DVDプレーヤーの接続

1 音声接続をする：下図の接続 A（デジタル）または E（アナログ）

2 映像接続をする：下図の接続 B、C、または D

3 テレビの接続をする

「テレビの接続」→16 を参照して接続してください。

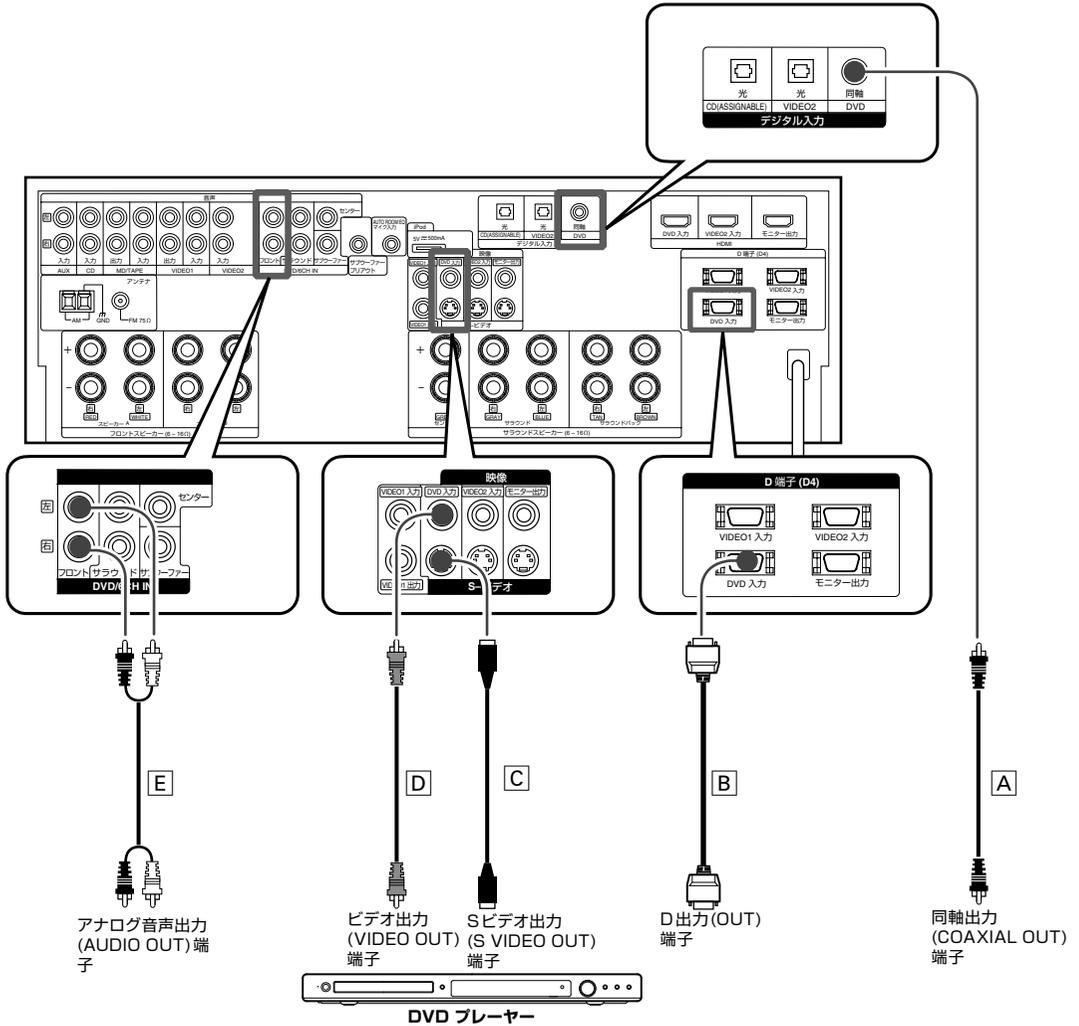
E
D
C
B
A

アナログ音声出力(AUDIO OUT)端子

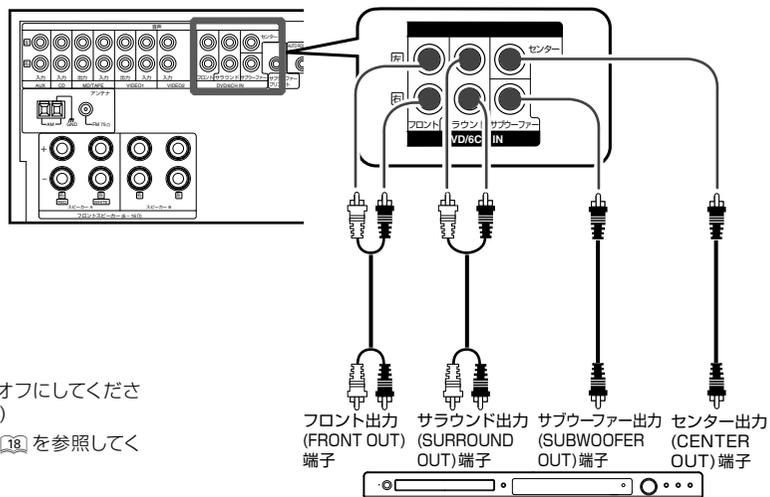
ビデオ出力(VIDEO OUT)端子

Sビデオ出力(S VIDEO OUT)端子

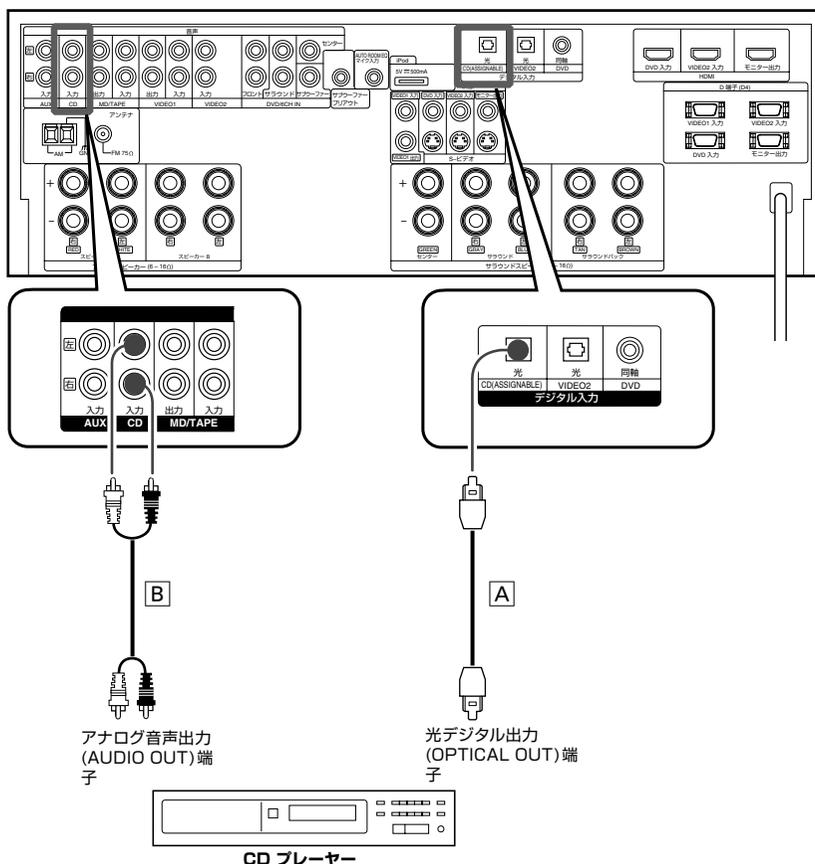
D出力(OUT)端子

同軸出力(COAXIAL OUT)端子

DVD プレーヤー

- 上記の接続をする場合は、HDMI入力の設定をオフにしてください。（「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」→36）
- 接続するDVDプレーヤーやテレビにHDMI端子がある場合はHDMI接続することをお勧めします。（「HDMI端子のある機器の接続」→15）

マルチチャンネル音声出力端子のあるDVDプレーヤーの接続

- 上記の接続をする場合は、HDMI入力の設定をオフにしてください。(「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」→36)
- 映像接続については「DVDプレーヤーの接続」→18 を参照してください。

CDプレーヤーの接続

1 音声接続をする：下図の接続 A（デジタル）または B（アナログ）

- 接続 A をした場合は、入力割り当てをCDに設定してください。(「入力割り当て –"Assignment"–」→35)

映像再生機器の接続

1 音声接続をする：下図の接続 A（デジタル）または E（アナログ）

2 映像接続をする：下図の接続 B、C、または D

3 テレビの接続をする

「テレビの接続」→16 を参照して接続してください。

光
CD(ASSIGNABLE)
光
VIDEO2
同軸
DVD
デジタル入力

音声
左
右
出力
入力
入力
VIDEO1
VIDEO2

映像
VIDEO1 入力
DVD 入力
VIDEO2 入力
モニター出力
VIDEO1 出力
S-ビデオ

D 端子 (D4)
VIDEO1 入力
VIDEO2 入力
DVD 入力
モニター出力

E
D
C
B
A

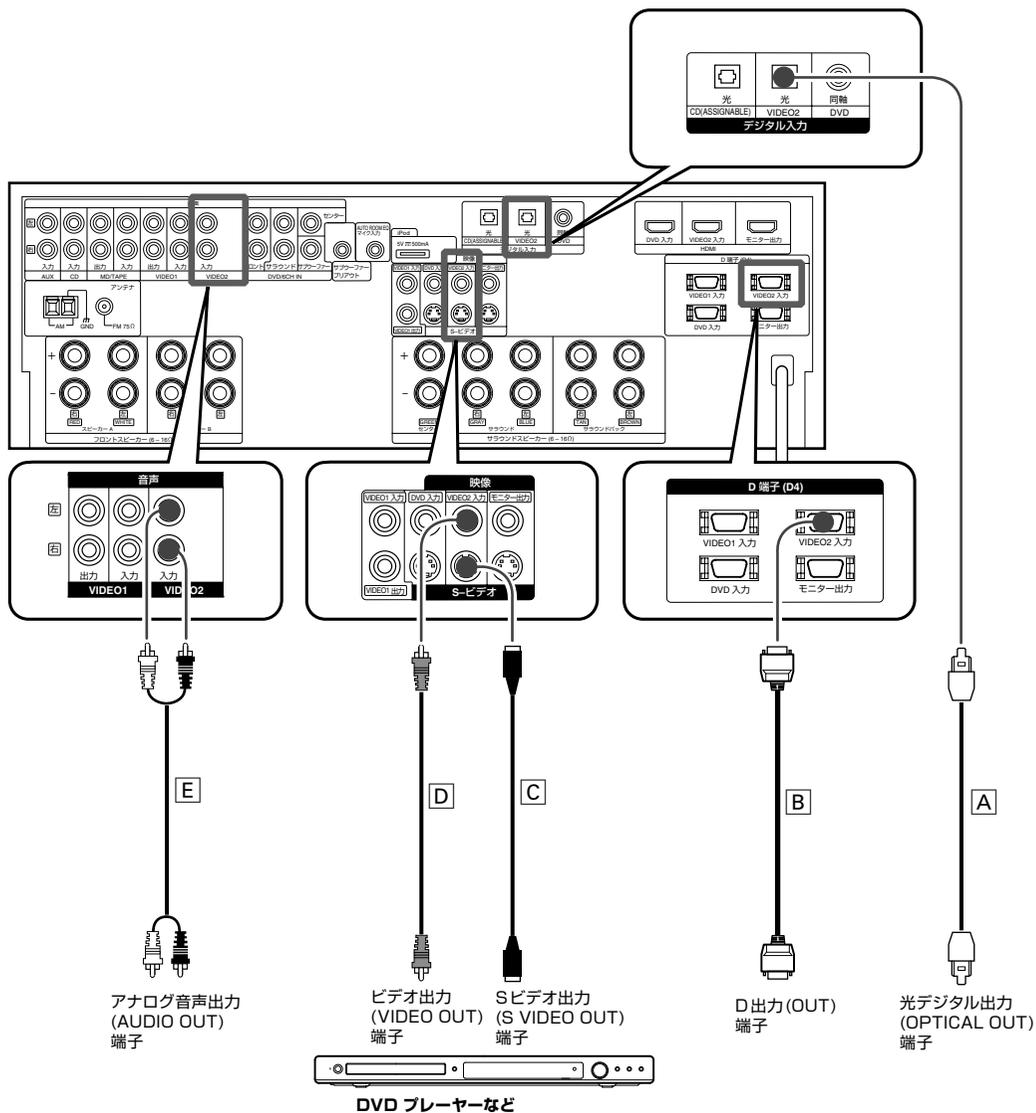
アナログ音声出力
(AUDIO OUT)
端子

ビデオ出力
(VIDEO OUT)
端子

Sビデオ出力
(S VIDEO OUT)
端子

D出力(OUT)
端子

光デジタル出力
(OPTICAL OUT)
端子

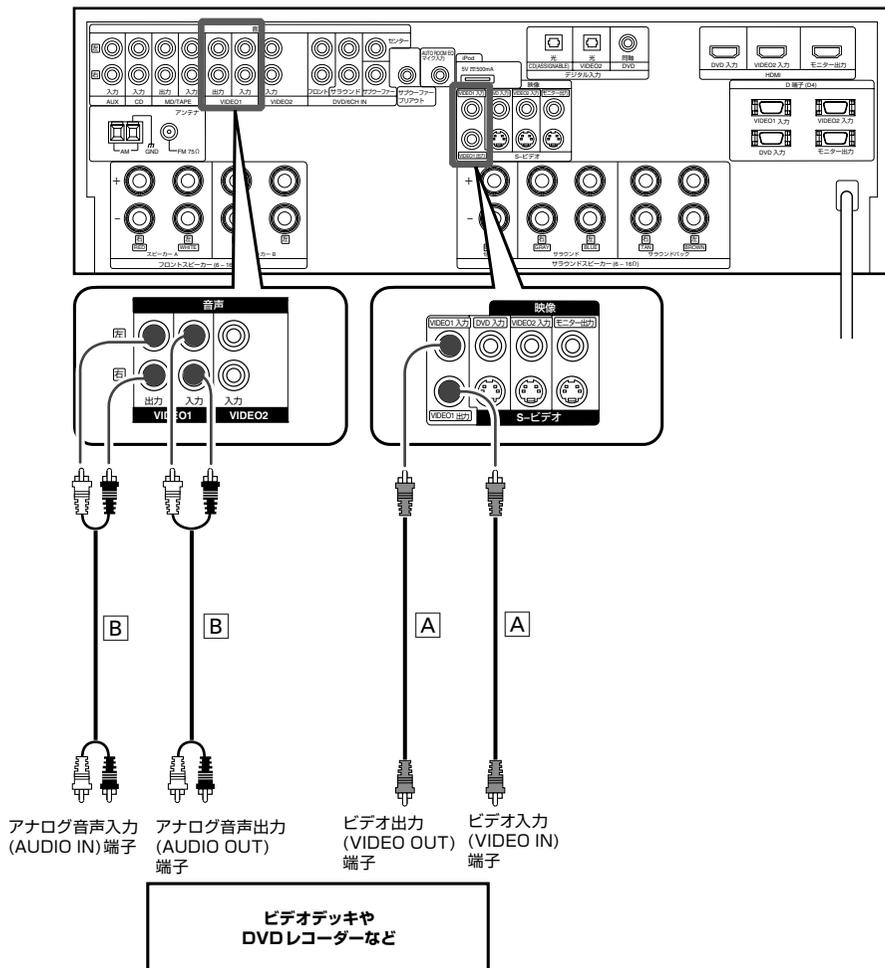
DVD プレーヤーなど

- 上記の接続をする場合は、HDMI入力の設定をオフにしてください。（「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」→36）
- 接続する再生機器やテレビにHDMI端子がある場合はHDMI接続することをお勧めします。（「HDMI端子のある機器の接続」→15）

録画機器の接続

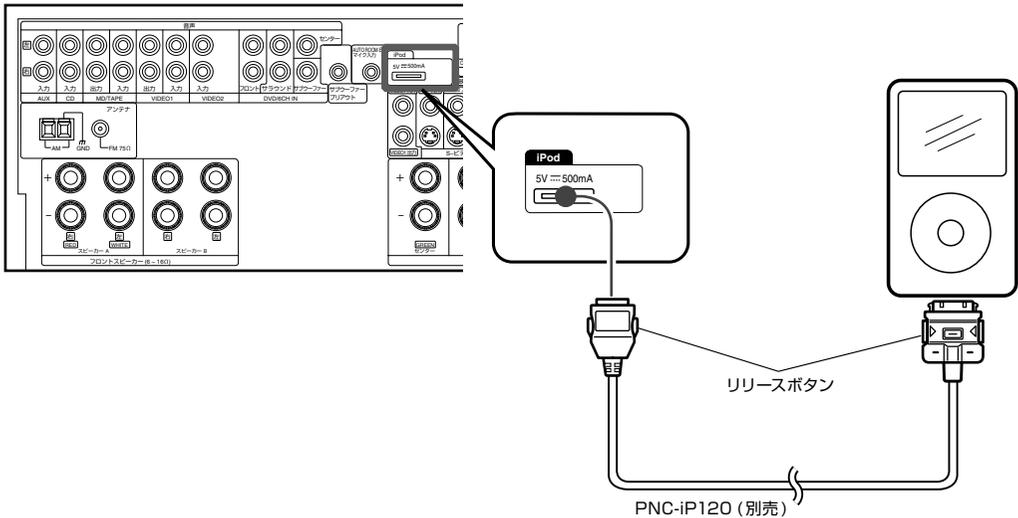
1 音声接続をする：下図の接続 B

2 映像接続をする：下図の接続 A

3 テレビの接続をする

「テレビの接続」→ 16 を参照して接続してください。

iPodの接続

iPodを接続するには、iPod接続ケーブルPNC-iP120（別売）が必要です。

使用できるiPodについては「本機で使用できるiPodについて」→ 9 を参照してください。

iPod接続時のディスプレイ表示について

iPodを接続し入力ソースをiPodにすると、ディスプレイでiPodの接続状況が確認できます。

"Reading"（点滅）：

iPodを認識しています。

"Connected":

iPodの認識が完了しました。本機からiPodの操作ができます。

"Connect Error":

接続が正しくありません。

➡ iPodを取り外し、もう一度接続し直してください。

本機で使用できるiPodではありません。

➡「本機で使用できるiPodについて」→ 9 を参照して、本機で使用できるiPodを接続してください。

iPodのソフトウェアのバージョンが古い可能性があります。

➡「本機で使用できるiPodについて」→ 9 を参照して、iPodのソフトウェアのバージョンを最新のものにしてください。

iPodのバッテリーが少ない可能性があります。

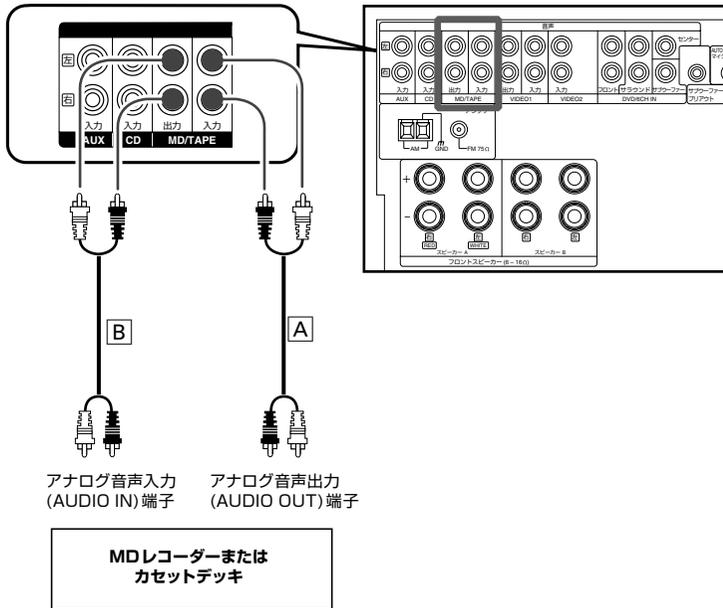
➡ 充電されるまでお待ちください。

"Disconnect":

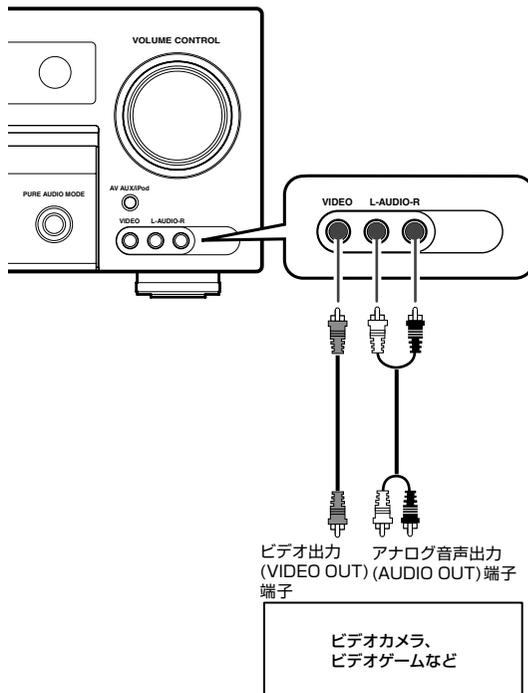
iPodが取り外されました。

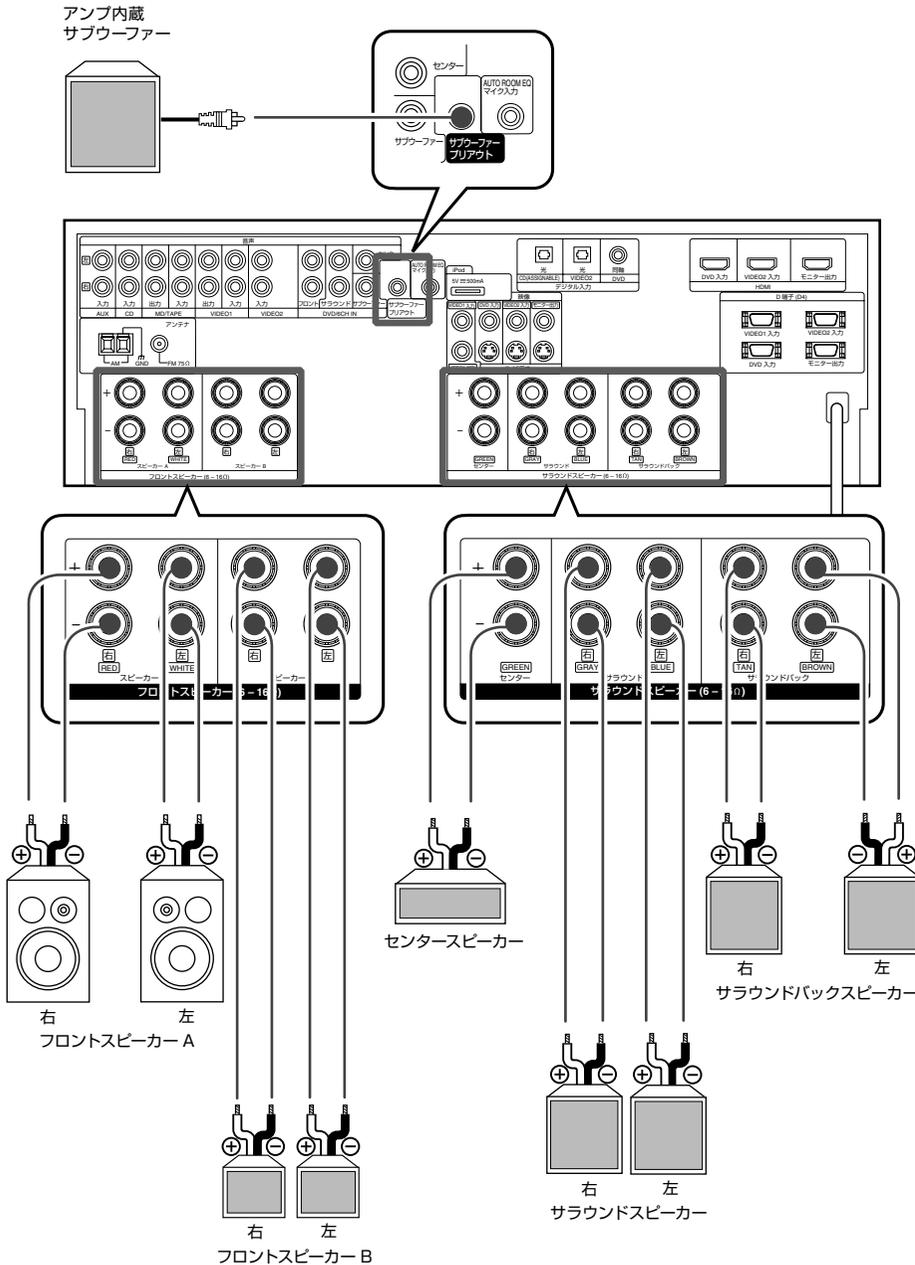
- iPodの接続は、本機の電源をオフ（スタンバイ状態）にしてから行ってください。
- iPod接続ケーブルはカチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
- iPodを取り外すときは、iPod接続ケーブルのコネクタの両側のリリースボタンをしっかりと押しながら抜いてください。無理に引き抜くと破損の原因になります。
- iPodを本機に接続している間は、本機または本機に付属のリモコンでiPodの操作をします。iPodを本機に接続している間は、iPod側では操作できません。

MDレコーダー / カセットデッキの接続

1 音声接続をする：下図の接続 A および B

• 録音をしない場合は、接続 B は必要ありません。

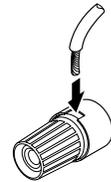
AV AUX端子の接続

ポータブルビデオカメラ機器など普段は本機に接続して使用しない機器は、本体前面にあるAV AUX端子に接続することができます。

接続のしかた

スピーカーの接続

スピーカー端子の接続のしかた

1 コードのビニール被覆を約1cm程度むく。

2 つまみをゆるめる。

3 コードを差し込む。

金属部分が隠れるくらいまで入れます。

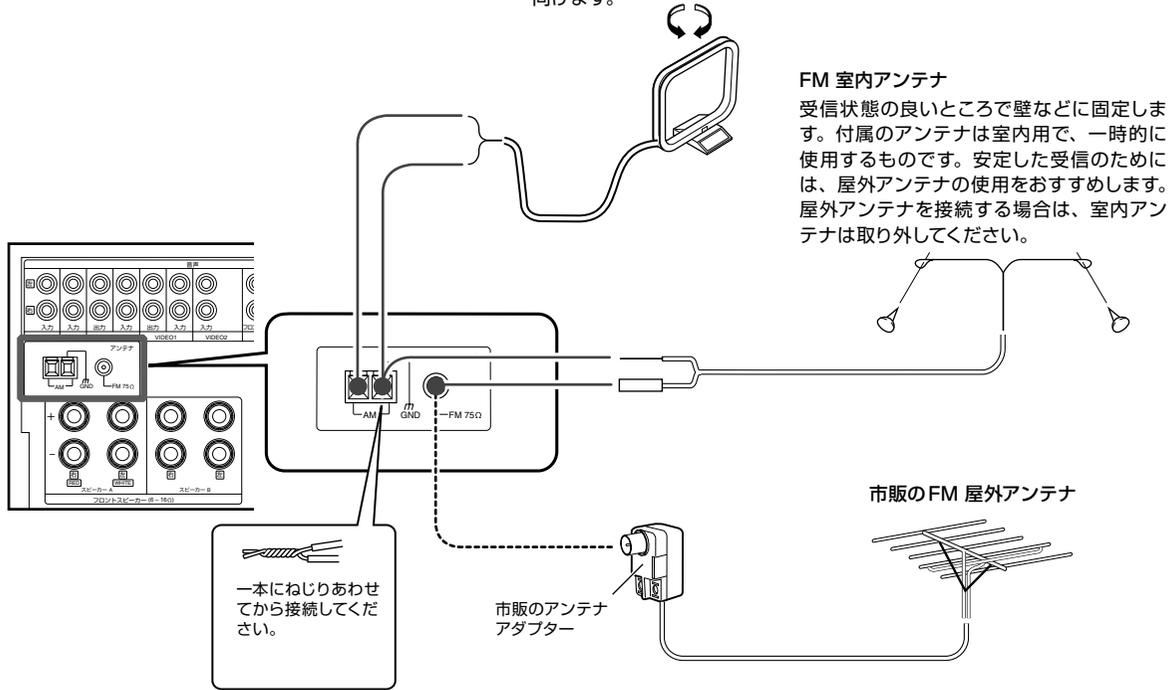
4 つまみを締める。

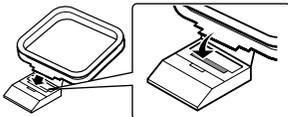
- スピーカーインピーダンス：6 — 16 Ω
- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- スピーカーコードの左右を逆にしたり、極性を間違えて接続すると、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。
- サラウンドバックスピーカーが1つの場合は、サラウンドバック左端子に接続してください。
- 2組目のフロントスピーカーを接続する場合、または他の部屋のスピーカーを本機に接続する場合は、スピーカー B 端子に接続してください。
- 市販のバナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をしっかり締めた状態で接続してください。

アンテナの接続

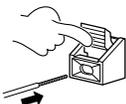
アンテナを接続しないとラジオ放送が受信できません。下記に従って正しく接続してください。

AM ループアンテナ

本機、テレビ、パソコン、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番良い方向に向けます。

AM ループアンテナ端子の接続のしかた

1 アンテナを組み立てる。

溝に差し込みます。

2 レバーを押す。

3 アンテナコードを差し込む。

金属部分が隠れるくらいまで入れます。

4 レバーを戻す。

FM 室内アンテナの接続のしかた

1 アンテナコードを差し込む。

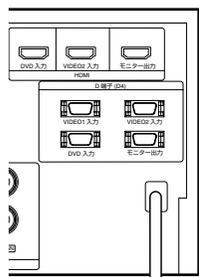
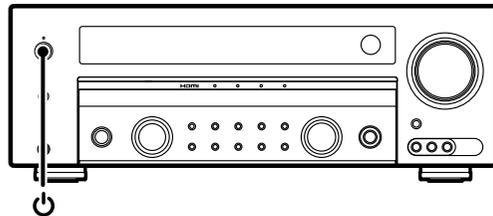
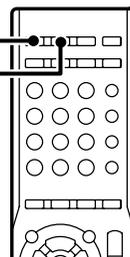
5mm程度入ります。

FM 屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って室内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します。

⚠注意　屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因になることがあります。

電源を入れる

1 すべての接続が完了したら、電源コードをコンセントに接続する。

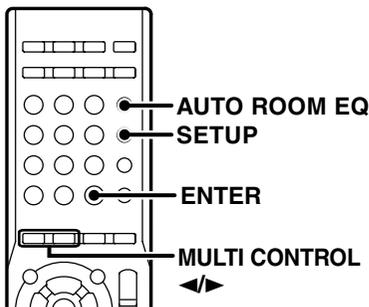
フロントパネルのスタンバイインジケーターが赤く点灯し、スタンバイ状態になります。

2 本機の[⏻(電源)]キー、またはリモコンの[ON]キーを押して電源をオンにする。

フロントパネルのスタンバイインジケーターが消灯し、ディスプレイが点灯します。

電源をオフにする(スタンバイ状態)には

本機の[⏻(電源)]キー、またはリモコンの[STANDBY]キーを押す。

セットアップメニューと操作のしかた

1 [SETUP] キーでセットアップモードに入る。

"Auto Setup"は、[AUTO ROOM EQ] キーでもセットアップモードに入れます。

2 [MULTI CONTROL ◄/►] キーで項目を選び、[ENTER] を押す。

サブメニューがある場合は、同じ手順で項目を選びます。

3 各項目のページを参照して設定をする。

セットアップメニュー	サブメニュー	設定内容	ページ
"Auto Setup"	"Room EQ"	オートセットアップで設定されたイコライザーカーブを使うか使わないか設定します。	→31
	"Calibrate"	スピーカーやリスニングルームの特性を測定し、解析します。	→28
	"Confirm"	オートセットアップの結果を確認します。	→29
	"Return"	セットアップメニューに戻ります。	
"Manual Setup"	"SP Setup"	スピーカーの有無やサイズを選びます。	→32
	"SP Level"	スピーカーの出力レベルを調整します。	→33
	"SP Distance"	スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。	→33
	"Return"	セットアップメニューに戻ります。	
"Subw Re-Mix"		サブウーファーに他のチャンネルの低音域を加えます。	→34
"Crossover"		"SP Setup"で"Normal"に設定したスピーカーで再生する低音域周波数の下限を設定します。設定した周波数より低い帯域の音声信号を他のスピーカー("Large"に設定しているスピーカーやサブウーファー)に振り分けます。	→35
"LFE Level"		Dolby Digital やDTSの再生時に低音を調節します。	→35
"Assignment"		背面のCD(ASSIGNABLE)端子に入力を割り当てます。	→35
"Audio Delay"		映像と音声のズレを調整します。	→35
"HDMI Input"		HDMIの入力を有効にするか無効にするかを設定します。有効にすると、HDMIのさまざまな機能が使えます。	→36
"HDMI Setup"	"Audio Out"	HDMIの音声入力を本機に接続されたスピーカーから出力するか、テレビから出力するかを設定します。	→37
	"Audio Delay"	HDMIの映像と音声のズレを調整します。	→37
	"HDMI Link"	HDMIのコントロール機能のオン/オフを設定します。オンに設定すると、テレビの電源と本機の電源を連動させたり(パワーコントロール)、テレビ側から本機の音量の調節などができるようになります(テレビコントロール)。	→37
	"Return"	セットアップメニューに戻ります。	
"TV Audio In"		テレビのデジタルサラウンド放送をサラウンド環境で楽しみたいときは、オンに設定します。オンに設定すると、テレビの入力を切り換えたときに本機の入力が"OPT1"に切り換わります。	→38
"Setting Lock"		本機の設定をロックします。	→38
"Exit"		セットアップメニューを終了します。	

セットアップメニューを抜けるには

セットアップメニューで"Exit"を選ぶか、[SETUP] キーを押す。

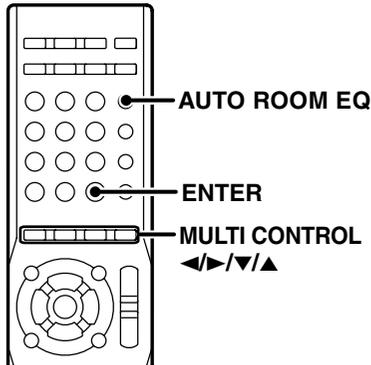
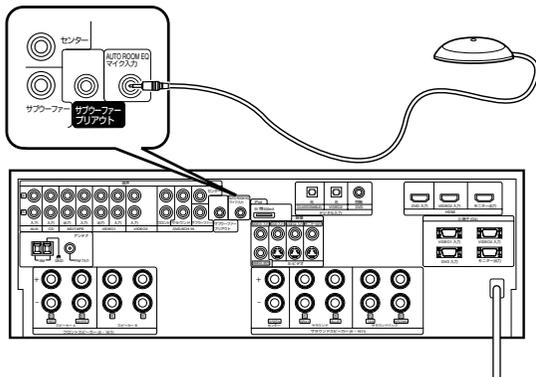
スピーカーの設定 -"Auto Setup" (Auto Room EQ)-

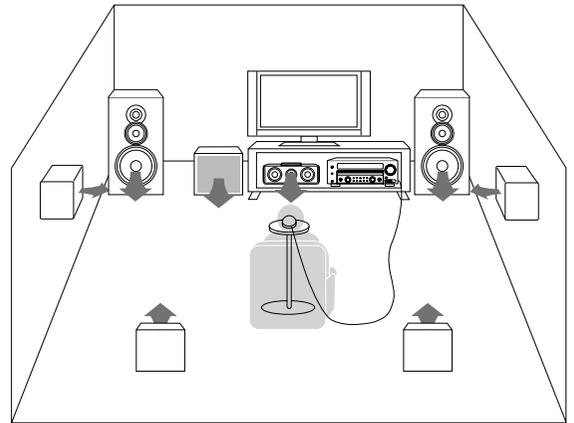
Auto Room EQ機能は以下の測定や解析を自動で行い、最適なホームシアター環境を設定します。

- **スピーカーの接続**
- **スピーカーからリスニングポジションまでの距離**
- **スピーカーのサイズ**
- **スピーカーの極性**
- **スピーカーの再生周波数特性**
- **スピーカーの音量レベルの調整**

付属のセットアップマイクを使用して行います。

測定中はスピーカーより大きなテスト信号が出力されます。特に夜間には近隣や小さいお子様に十分配慮してください。

本機の設定

1 マイクを本機に接続する。

ヘッドホンをさしている場合は抜いてください。

2 マイクをリスニングポジションに置く。

マイクは耳の高さに置いてください。
スピーカーとマイクの間には障害物を置かないでください。

3 オートセットアップモードに入り、測定を開始する。

[AUTO ROOM EQ] を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Calibrate" を選ぶ。

Calibrate

[ENTER] を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Start" を選ぶ。

Start

[ENTER] を押す。

Calibrating 1

測定が完了するまでに約２分間かかります。

表示が "Calibrating 1"、"Calibrating 2"と変わります。測定が終わると"Analyzing"表示に変わり、測定結果の解析をします。この場合は、手順６に進みます。

測定が中断し、メッセージが表示された場合は、手順４に進んでください。

4 メッセージの確認とその対応をする。

「メッセージが出たときは」→30 を参照して、メッセージの内容を確認します。

つづく

5 測定を続ける。

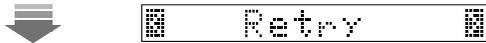
確認メッセージ(→31)が出たとき

[MULTI CONTROL ►] で "Continue" を選ぶ。

[ENTER] を押す。

Calibrating 2

エラーメッセージ(→30)が出たとき

[MULTI CONTROL ►] で "Retry" を選ぶ。

[ENTER] を押す。

6 オートセットアップを終了する。

"Analyzing" 表示が "Complete" 表示に変わるとオートセットアップは完了です。

"Confirm" 表示のときに [ENTER] キーを押すと測定内容の確認になります。(「測定内容を確認したいときは」→29)

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Return" を選ぶ。

[ENTER] を押す。

- 部屋の特性によってはスピーカーのレベルや距離の測定結果が実際と異なる場合があります。このような場合はマニュアルセットアップで設定内容を修正してください。(「スピーカーの設定 –"Manual Setup"–」→32)
- オートセットアップ後にスピーカーやスピーカーの位置を変更した場合は、再度オートセットアップを行ってください。

測定内容を確認したいときは

1 手順3で "Confirm" を選び、[ENTER] を押す。

2 [MULTI CONTROL ◄/►] で確認したい項目を選び、[ENTER] を押す。[MULTI CONTROL ◄/►] で設定内容を確認する。

以下の設定内容が確認できます。

- スピーカー構成 ("SP Setup")
- スピーカーレベル ("SP Level")
- スピーカーの距離 ("SP Distance")
- クロスオーバー周波数 ("Crossover")

設定内容の詳細は「スピーカーの設定 –"Manual Setup"–」→32 を参照してください。

測定を中断したいときは

以下のいずれかの操作をすると、測定を中断して通常の入力表示画面に戻ります。

- 電源のON/OFF
- [AUTO ROOM EQ] キーの操作
- [SETUP] キーの操作
- [INPUT SELECTOR] キーの操作

メッセージが出たときは

測定中にエラーメッセージや確認メッセージが表示されて測定が中断した場合は、何らかの不具合が検出された事を意味します。メッセージの内容を読み、必要な処理を行ってから、再度測定を行ってください。

エラーメッセージ: メッセージの内容にしたがって処置をし、再度測定をしてください。

確認メッセージ: 内容を確認し、そのまま先へ進むことができます。

エラーメッセージ

"E1 : No Mic":

セットアップマイクが接続されていません。

➡ 付属のセットアップマイクを[AUTO ROOM EQ マイク入力]端子に接続してください。

"E2 : Phones":

ヘッドホンが接続されています。

➡ ヘッドホンを抜いてください。

"E3 : No Sp L/R"/"E3 : No Sp L":

左右両方のフロントスピーカー、またはどちらか一方のフロントスピーカーが接続されていません。

➡ フロントスピーカーを接続してください。

"E3 : No Sp SL"/"E3 : No Sp SR":

左右どちらか一方のサラウンドスピーカーが接続されていません。

➡ サラウンドスピーカーを接続してください。

"E3 : No Sp SBL":

左右どちらか一方のサラウンドバックスピーカーが接続されていません。

➡ 7.1チャンネルシステムの場合は、左右両方のサラウンドバックスピーカーを接続してください。6.1チャンネルシステムの場合は、サラウンドバックスピーカーをサラウンドバック左に接続してください。

"E3 : SB w/o S":

サラウンド左/右スピーカーが接続されていません。

➡ サラウンド左/右スピーカーを接続してください。

"E4 : Noisy":

測定環境の雑音が大きすぎます。

➡ 雑音の原因を取り除いて再度測定を行ってください。

"E5 : Bad S/N":

測定環境の雑音が大きすぎます。

➡ 再度測定を行ってください。

"E6 : Far SP":

スピーカーの設置位置が遠すぎます。

➡ スピーカーを設置し直してください。

"E7 : DSP":

本体内部で通信エラーが起こりました。

➡ 再度測定を行い、同じエラーが出る場合はケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

"E8 : Time Out":

測定中に何らかの要因で時間がかかり過ぎています。

➡ 再度測定を行い、同じエラーが出る場合はケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

確認メッセージ

"C1 : Phase L"/"C1 : Phase R":

フロント左または右スピーカーの接続が＋ー逆です。

➡ フロント左または右スピーカーの＋ーが正しく接続されているかどうか確認してください。

"C1 : Phase SL"/"C1 : Phase SR":

サラウンド左または右スピーカーの接続が＋ー逆です。

➡ サラウンド左または右スピーカーの＋ーが正しく接続されているかどうか確認してください。

"C1 : Phase SBL"/"C1 : Phase SBR":

サラウンドバック左または右スピーカーの接続が＋ー逆です。

➡ サラウンドバック左または右スピーカーの＋ーが正しく接続されているかどうか確認してください。

"C1 : Phase C":

センタースピーカーの接続が＋ー逆です。

➡ センタースピーカーの＋ーが正しく接続されているかどうか確認してください。

"C2 : No Sp C":

センタースピーカーが接続されていません。

➡ センタースピーカーをお持ちの場合は接続してください。お持ちでない場合はこのメッセージを無視してください。

"C2 : No Sp SW":

サブウーファーが接続されていません。

➡ サブウーファーをお持ちの場合は接続してください。お持ちでない場合はこのメッセージを無視してください。

"C2 : No Sp S":

サラウンドスピーカーが接続されていません。

➡ サラウンドスピーカーをお持ちの場合は接続してください。お持ちでない場合はこのメッセージを無視してください。

"C2 : No Sp SB":

サラウンドバックスピーカーが接続されていません。

➡ サラウンドバックスピーカーをお持ちの場合は接続してください。お持ちでない場合はこのメッセージを無視してください。

"C2 : No Sp SBR":

サラウンドバック右スピーカーが接続されていません。

➡ サラウンドバック右スピーカーをお持ちの場合は接続してください。お持ちでない場合はこのメッセージを無視してください。

Room EQの設定

オートセットアップではスピーカーの設定の他に、リスニングルームの音響特性を測定してその部屋に合ったイコライザーカーブを作ります。そのイコライザーカーブのオン/オフを設定します。

1 Auto Setup モードに入り、"Room EQ"を選ぶ。

[AUTO ROOM EQ] を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Room EQ" を選ぶ。

Room EQ

[ENTER] を押す。

2 イコライザーカーブを使うかどうか設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で選ぶ。

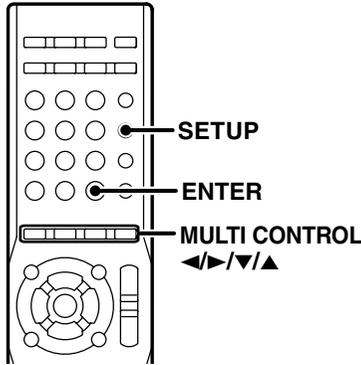
Room EQ On

[ENTER] を押す。

表示	設定
"Room EQ On"	オートセットアップで測定したイコライザーカーブを使います。
"Room EQ Off"	オートセットアップで測定したイコライザーカーブを使いません。

- "Room EQ Off" を選んでも、オートセットアップで設定したスピーカーの設定は有効です。

スピーカーの設定 –"Manual Setup"–

各スピーカーを手動で設定する場合や、オートセットアップで設定された内容を変更する場合に行います。

本機の設定

スピーカー構成 –"SP Setup"–

スピーカー有無やスピーカーのサイズを選びます。

1 マニュアルセットアップモードに入る。

[SETUP] を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Manual Setup" を選ぶ。

Manual Setup

[ENTER] を押す。

2 "SP Setup" を選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "SP Setup" を選ぶ。

SP Setup

[ENTER] を押す。

3 各スピーカーの有無や大きさを選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►] でスピーカーを選ぶ。

FRNT Large

[MULTI CONTROL ▼/▲] で設定する。

FRNT Normal

上記の操作を繰り返してすべてのスピーカーの設定をします。

スピーカー	表示	設定
サブウーファー	"SUBW On"	サブウーファーを接続しています。
	"SUBW Off"	サブウーファーを接続していません。
フロントスピーカー	"FRNT Large"	大きめサイズのフロントスピーカー
	"FRNT Normal"	普通サイズのフロントスピーカー
センタースピーカー	"CNTR Large"	大きめサイズのセンタースピーカー
	"CNTR Normal"	普通サイズのセンタースピーカー
	"CNTR Off"	センタースピーカーを接続していません。
サラウンドスピーカー	"SURR Large"	大きめサイズのサラウンドスピーカー
	"SURR Normal"	普通サイズのサラウンドスピーカー
	"SURR Off"	サラウンドスピーカーを接続していません。
サラウンドバックスピーカー	"SB Largex2"	大きめサイズのサラウンドバックスピーカーを2つ接続しています。(7.1ch)
	"SB Largex1"	大きめサイズのサラウンドバックスピーカーを1つ接続しています。(6.1ch)
	"SB Normalx2"	普通サイズのサラウンドバックスピーカーを2つ接続しています。(7.1ch)
	"SB Normalx1"	普通サイズのサラウンドバックスピーカーを1つ接続しています。(6.1ch)
	"SB Off"	サラウンドバックスピーカーを接続していません。
	"Return"	セットアップメニューに戻ります。

4 [ENTER] を押して確定する。

- スピーカーサイズの目安
  "Large": 十分な低音域再生能力のあるスピーカー（大口径のウーファーのあるスピーカーや、大きなキャビネットサイズのスピーカーなど）
  "Normal": 低音域再生能力が "Large"より低いスピーカー（低音域は "Large" に設定されている他のスピーカーやサブウーファーから出力されます。）
  サイズが分からない場合は、"Normal" の設定をおすすめします。
- サブウーファーで "SUBW Off" を選んだときは、フロントスピーカーは "FRNT Large" に設定されます。
- フロントスピーカーで "FRNT Large" を選んだときは、サブウーファーの設定を "SUBW On" にしていてもサブウーファーから音は出ません。サブウーファーから音を出したい場合は、サブウーファーリミックスをオンにしてください。（「サブウーファーリミックス –"Subw Re-Mix"–」→34）
- フロントスピーカーで "FRNT Normal" を選んだときは、その他のスピーカーで "Large" を選べません。
- サラウンドスピーカーで "SURR Off" を選んだ場合は、サラウンドバックスピーカーを選べません。
- サラウンドスピーカーで "SURR Normal" を選んだ場合は、サラウンドバックスピーカーで "SB Large" を選べません。

スピーカーレベル –"SP Level"–

テストトーンを聴きながら、すべてのスピーカーからの音量がほぼ同じになるように調整します。

1 "SP Level"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"SP Level"を選ぶ。

SP Level

[ENTER]を押す。

2 テストトーンの再生方法を選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►]で選ぶ。

T.TONE Auto

[ENTER]を押す。

表示	設定
"T.TONE Auto"	テストトーンが約2秒ごとに各スピーカーから聞こえます。
"T.TONE Manu"	テストトーンを出力するスピーカーを自分で選んで調整するモードです。
"T.TONE Off"	今聴いている音で調整します。
"Return"	セットアップメニューに戻ります。

3 各スピーカーの音量レベルを調整する。

"T.TONE Auto"を選んでいるとき

調整したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときに[MULTI CONTROL ▼/▲]で音量レベルを調整します。すべての調整が終わったら[ENTER]で確定します。

"T.TONE Manu"または"T.TONE Off"を選んでいるとき

[MULTI CONTROL ◄/►]で調整したいスピーカーチャンネルを選びます。[MULTI CONTROL ▼/▲]で音量レベルを調整します。すべての調整が終わったら[ENTER]で確定します。

- 市販の音圧計をお持ちの場合は、メーターの読み取り単位を"C"に設定し、ノイズレベルが75dBになるように各チャンネルの音量レベルを調節します。調整はリスニングポジションで行ってください。

スピーカーの距離 –"SP Distance"–

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。設定を行う前に、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測って下の表に記入しておきましょう。

スピーカーの距離

スピーカー	インプットチャンネルインジケーター	スピーカーまでの距離
フロントスピーカー（左）	"L"	メートル（フィート）
センタースピーカー	"C"	メートル（フィート）
フロントスピーカー（右）	"R"	メートル（フィート）
サラウンドスピーカー（右）	"SR"	メートル（フィート）
サラウンドバックスピーカー	"SB"	メートル（フィート）
サラウンドバックスピーカー（右）	"SBR"	メートル（フィート）
サラウンドバックスピーカー（左）	"SBL"	メートル（フィート）
サラウンドスピーカー（左）	"SL"	メートル（フィート）
サブウーファー	"SW"	メートル（フィート）

1 "SP Distance"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"SP Distance"を選ぶ。

SP Distance

[ENTER]を押す。

2 距離の単位を選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►]で単位を選ぶ。

UNIT Meters

[ENTER]を押す。

表示	設定
"UNIT Meters"	メートル単位。
"UNIT Feet"	フィート単位。
"Return"	セットアップメニューに戻ります。

つづく

スピーカーの設定 –"Manual Setup"–

3 距離を設定する。

[MULTI CONTROL ◄/►] でスピーカーを選ぶ。

LEFT 0.03m

[MULTI CONTROL ▼/▲] で距離を設定する。

LEFT 3.00m

0.03m～9.0m (0.1ft～30.0ft) まで、0.03m (0.1ft) ごとに調節できます。

4 手順3の操作を繰り返してすべてのスピーカーの距離を設定する。

5 [ENTER] を押して確定する。

その他の設定

サブウーファーリミックス –"Subw Re-Mix"–

サブウーファーに他チャンネルの低音を加えます。

1 "Subw Re-Mix" を選ぶ。

[SETUP] を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►] で "Subw Re-Mix" を選ぶ。

Subw Re-Mix

[ENTER] を押す。

2 サブウーファーリミックスを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で サブウーファーリミックスを使うか使わないか選ぶ。

SW RE-MIX On

[ENTER] を押す。

表示	設定
"SW RE-MIX On"	サブウーファーリミックスをオンにします。
"SW RE-MIX Off"	サブウーファーリミックスをオフにします。 低音はフロントスピーカーのみから出ます。

- サブウーファーの設定が "Off" のとき、またはフロントスピーカーの設定が "FRNT Normal" のときは、サブウーファーリミックスは設定できません。

クロスオーバー周波数 –"Crossover"–

スピーカー構成の設定で"Normal"に設定されたスピーカーで再生する低音域周波数の下限を設定します。設定した周波数より低い帯域の音声信号は、"Large"に設定されている他のスピーカーや、サブウーファーから出力されます。

1 "Crossover"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"Crossover"を選ぶ。

Crossover

[ENTER]を押す。

2 クロスオーバー周波数を選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でクロスオーバー周波数を選ぶ。

FREQ. 60Hz

[ENTER]を押す。

40Hz～200Hzまで、10Hzごとに調節できます。

LFE (Low Frequency Effect) レベル –"LFE Level"–

Dolby Digital やDTSの再生時に低音を調節します。

1 "LFE Level"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"LFE Level"を選ぶ。

LFE Level

[ENTER]を押す。

2 LFEレベルを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でレベルを選ぶ。

LFE LEVEL -3

[ENTER]を押す。

レベルは0dBから-10dBの範囲で1dBごとに調整できます。

入力割り当て –"Assignment"–

CD(ASSIGNABLE)光端子に接続した機器にあわせて入力を割り当てます。CD、VIDEO1、AUXから選べます。

1 "Assignment"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"Assignment"を選ぶ。

Assignment

[ENTER]を押す。

2 割り当てたい入力を選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で入力を選ぶ。

OPT1 CD

[ENTER]を押す。

表示	設定
"OPT1 CD"	CDを割り当てます。
"OPT1 VIDEO1"	VIDEO1を割り当てます。
"OPT1 AUX"	AUXを割り当てます。

オーディオディレイ –"Audio Delay"–

テレビモニター映像の方がスピーカーから聞こえる音声より遅い場合に音声を遅らせる調整をします。

1 "Audio Delay"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"Audio Delay"を選ぶ。

Audio Delay

[ENTER]を押す。

2 ディレイタイムを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でディレイタイムを選ぶ。

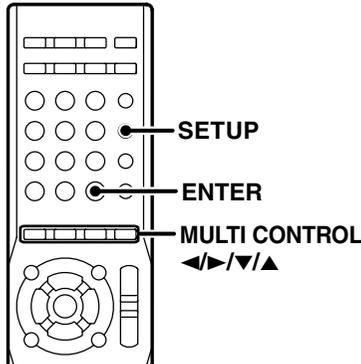
DELAY 10ms

[ENTER]を押す。

レベルは0ms(ミリ秒)から300ms(ミリ秒)の範囲で10msごとに調整できます。

HDMIの設定

HDMI端子に接続した機器を使ったり、HDMIコントロール機能を使ったりするためにはHDMIの設定が必要です。

HDMI接続をしていない場合は、HDMI入力の設定をオフにしてください。(「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」)

HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–

HDMIの入力を有効にするか無効にするか設定します。また、この設定を有効にすることにより、HDMI機能を設定したり、HDMIコントロール機能を使うことができます。

1 "HDMI Input"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"HDMI Input"を選ぶ。

HDMI Input

[ENTER]を押す。

2 HDMIの入力ソース(DVDまたはVIDEO2)を選び、音声入力と映像入力の設定をする。

[MULTI CONTROL ◄/►]で入力ソース(DVDまたはVIDEO2)を選ぶ。

DVD Video

[MULTI CONTROL ▼/▲]で音声入力と映像入力の設定をする

DVD A/V

[ENTER]を押す。

表示 (DVD入力時/ VIDEO2入力時)	設定
"DVD A/V" "VIDEO2 A/V"	音声と映像両方においてHDMI入力を使います。通常はこの設定を選びます。
"DVD Video" "VIDEO2 Video"	映像のみHDMI入力を使います。 音声はデジタル(光・同軸)またはアナログ音声入力になります。
"DVD Off" "VIDEO2 Off"	映像はアナログ映像入力(ビデオ、Sビデオ、またはD端子)になります。 音声はデジタル(光・同軸)またはアナログ音声入力になります。

HDMIの設定 –"HDMI Setup"–

HDMIコントロール機能の設定をします。

1 HDMIセットアップモードに入る。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"HDMI Setup"を選ぶ。

HDMI Setup

[ENTER]を押す。

2 設定項目を選ぶ。

[MULTI CONTROL ◄/►]で設定項目を選ぶ。

Audio Out

[ENTER]を押す。

表示		設定
"Audio Out"		HDMIの音声の出力先を設定します。
"Audio Delay"		出力する音声と映像の時間のずれを補正します。
"HDMI Link"		HDMIコントロール機能を使うか使わないか設定します。
	"Power CTRL"*[1]	HDMIコントロールで電源のオン/オフを連動させます。
	"TV CTRL"*[2]	テレビ側から本機の音量の調整などの操作ができます。
"Return"		セットアップメニューに戻ります。

*[1] "HDMI Link"の設定を"On"にしたときに設定できます。
*[2] "Power CTRL"の設定を"On"にしたときに設定できます。

3 それぞれの項目の設定をする。

各項目の設定は次ページを参照してください。

音声出力 –"Audio Out"–

HDMIの音声入力の出力先を設定します。

1 「HDMIの 設 定 –"HDMI Setup"–」→ 36 で、"Audio Out"を選ぶ。

2 HDMIの音声の出力先を設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で出力先を選ぶ。

AUDIO OUT AMP

[ENTER] を押す。

表示	設定
"AUDIO OUT AMP"	音声は本機に接続されたスピーカーから出ます。
"AUDIO OUT TV"	音声は本機に接続されたテレビから出ます。

- テレビコントロールがオフのときに設定できます。
- "AUDIO OUT TV"に設定時に音が出ないまたはノイズが出る場合は、再生機器側の音声出力設定をPCMにしてください。
- "AUDIO OUT TV"に設定時は、音量はテレビ側で調整してください。

オーディオディレイ（リップシンク）–"Audio Delay"–

テレビモニター映像の方がスピーカーから聞こえる音声より遅い場合に音声を遅らせる調整をします。

1 「HDMIの 設 定 –"HDMI Setup"–」→ 36 で、"Audio Delay"を選ぶ。

2 HDMI音声出力の遅延補正方法と遅延時間を設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で遅延補正方法を選ぶ。

DELAY Auto

[ENTER] を押す。

表示	設定
"DELAY Auto"	出力する音声と映像の時間のずれを自動で補正します。
"DELAY Manual"	出力する音声と映像の時間のずれを手動で補正します。
"DELAY Off"	補正はしません。

"DELAY Manual"を選んだ場合は、[MULTI CONTROL▼/▲]で遅延時間を選択し、[ENTER]で確定します。

レベルは0ms(ミリ秒)から300ms(ミリ秒)の範囲で10msごとに調整できます。

- テレビが"DELAY Auto"に対応していない場合は"DELAY Manual"を選んでください。

HDMI リンク –"HDMI Link"–

本機からまたは接続機器からの操作で、音量調節や入力ソースの切り換えを連動して行うかを設定します。

1 「HDMIの 設 定 –"HDMI Setup"–」→ 36 で、"HDMI Link"を選ぶ。

2 HDMIコントロール機能のオン/オフを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] でオン/オフを選ぶ。

HDMI LINK On

[ENTER] を押す。

表示	設定
"HDMI LINK On"	HDMIコントロール機能を使います。
"HDMI LINK Off"	HDMIコントロール機能を使いません。

HDMI LINKをオンにすると、フロントパネルのHDMIインジケーターが青く点灯します。

"HDMI LINK On"に設定した場合は「パワーコントロール」の設定に進みます。

パワーコントロール

本機に接続された機器からの電源操作や再生操作によって、本機の電源を連動させるかを設定します。

1 HDMIパワーコントロール機能のオン/オフを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] でオン/オフを選ぶ。

POWER CTRL On

[ENTER] を押す。

表示	設定
"POWER CTRL On"	テレビの電源をオン/オフすると、本機の電源も連動します。
"POWER CTRL Off"	テレビの電源に本機の電源は連動しません。

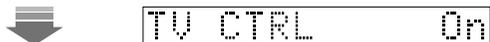
"POWER CTRL On"に設定した場合は「テレビコントロール」→ 38 の設定に進みます。

HDMIの設定

テレビコントロール

テレビ側で音声をテレビまたは本機のどちらから出力するかを設定します。この設定を"On"にすると、テレビ側から本機を操作(音量の調節など)できます。

1 HDMIテレビコントロール機能のオン/オフを設定する。

[MULTI CONTROL ▼/▲]でオン/オフを選ぶ。

TV CTRL On

[ENTER]を押す。

表示	設定
"TV CTRL On"	テレビから本機の操作ができるようにします。
"TV CTRL Off"	テレビから本機の操作をしません。

- テレビ側から操作できることは、テレビによって異なります。テレビの取扱説明書をご覧ください。

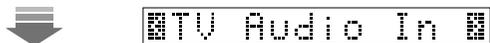
テレビ音声入力 –"TV Audio In"–

テレビの入力をHDMI入力(本機のHDMIモニター出力)からデジタル放送(テレビの内蔵チューナー)や他の入力に切り換えたときに、本機の入力を"OPT1"(背面の[光デジタル入力 CD(ASSIGNABLE)]端子)に自動的に切り替え、音声を本機に接続しているスピーカーから出力するようにします。AACなどのデジタルサラウンド放送を本機で設定したサラウンド環境で楽しめます。

1 "TV Audio In"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"TV Audio In"を選ぶ。

TV Audio In

[ENTER]を押す。

2 設定項目を選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で設定項目を選ぶ。

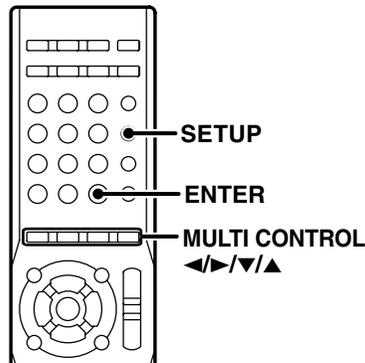
TV AUDIO On

[ENTER]を押す。

表示	設定
"TV AUDIO On"	音声を自動的に切り換えて、テレビの音声を本機のスピーカーから出力します。(本機のインプットセレクターは"OPT1"になります。)
"TV AUDIO Off"	音声は切り換わりません。(本機のインプットセレクターは変わりません。)

- HDMI LINKがオンのときに設定できます。

設定をロックする

誤ってキーを押してしまっても設定内容が変わらないようにロックします。

1 "Setting Lock"を選ぶ。

[SETUP]を押す。

[MULTI CONTROL ◄/►]で"Setting Lock"を選ぶ。

Setting Lock

[ENTER]を押す。

2 ロックする。

[MULTI CONTROL ▼/▲]で"SETUP Locked"を選ぶ。

SETUP Locked

[ENTER]を押す。

表示	設定
"SETUP Locked"	設定をロックします。
"SETUP Unlocked"	ロックを解除します。

HDMI機能の確認

お使いの機器やテレビによっては、一部のHDMIコントロール機能に対応していないため、正しく動作しないことがあります。HDMIコントロール機能を使う前に、お使いの機器がどの機能に対応しているか、下記の手順で確認することによって、HDMIコントロール機能をより便利に使うことができます。もし、正常に動作しない機能があった場合は、それぞれの設定をオフにして本機をご使用ください。

操作の前に

- 本機、テレビ、およびHDMI接続できる機器をHDMIケーブルで接続してください。
- テレビやHDMI接続できる機器のHDMIコントロール設定を有効にしてください。（テレビや再生機器の設定に関しては、それぞれの取扱説明書をご確認ください。）
- 本機のHDMIリンク、パワーコントロール、テレビコントロールおよびテレビ音声入力をオンに設定してください。

HDMIの基本動作の確認

1 HDMI接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 テレビの入力を、本機に接続したHDMI入力に切り換える。

3 本機の入力を、HDMI入力のソースに切り換えて、接続機器の映像が正しく映り、音声がスピーカーから出力されることを確認する。

HDMIコントロール機能の確認

1 HDMI接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 テレビの入力を本機が接続されている入力にし、テレビのリモコンで音量を調節する。

本機の音量が調節されていますか？（HDMIコントロールの確認）

3 テレビのリモコンでテレビの電源をオフ（スタンバイ）にする。

すべての機器の電源がオフになりますか？（パワーコントロールの確認）

4 HDMI接続しているすべての機器の電源がオフの状態で、再生機器を操作して再生を始める。

すべての機器の電源がオンになり、本機とテレビの入力が自動的に切り替わりますか？（HDMIリンクとパワーコントロールの確認）

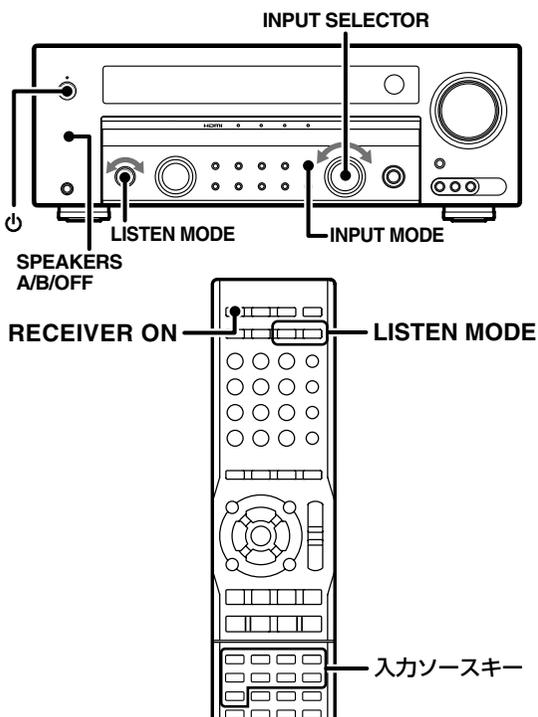
5 テレビに音声出力先の設定がある場合、その設定を切り換えて、音声が正しく出力されることを確認する。

本機あるいはテレビから音声が正しく出ていますか？（テレビコントロールの確認）

- この設定がテレビにない場合は、本機のHDMIの設定の“TV CTRL”をオフにして“Audio Out”にて音声の出力先を設定してください。
- テレビからノイズが出る場合は、音声出力先を本機に設定するか、テレビまたは接続機器に付属の取扱説明書をご確認の上、接続機器の音声出力をPCMに設定してください。

6 テレビの入力を内蔵チューナーに切り換える。

本機の入力が"OPT1"に自動的に切り換わりますか？（テレビ音声入力の確認）

- 以下の操作をしているときには、HDMIコントロール機能は使えません。
  - テストトーン再生中
  - オートセットアップ中
  - 録音モード中

電源を入れる

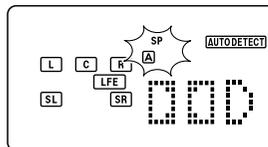
1 接続しているテレビやプレーヤーの電源を入れる。

2 [RECEIVER ON](リモコン) または [⏻](本体) を押して本機の電源をオンにする。

スピーカーシステムの設定

● 本体のみで操作できます。

[SPEAKERS A/B/OFF] を押して使用するスピーカーシステムを選ぶ。

使用するスピーカーシステムの表示が点灯します。

• 入力モードが"6ch Input"のときは、スピーカーシステムBは選択できません。

入力モードの設定

● 本体のみで操作できます。

デジタル入力端子 (CD(ASSIGNABLE)、VIDEO2、DVD)とHDMI入力端子 (DVD入力、VIDEO2入力) に接続した機器を再生するときには、音声入力タイプと合うように入力モードを設定します。

1 [INPUT SELECTOR] で"CD"("CD"、"VIDEO1"、"AUX"のうち[CD(ASSIGNABLE)]端子に割り当てた入力ソース)、"VIDEO2"、または"DVD"を選ぶ。

2 [INPUT MODE] を押して入力モードを選びます。

HDMI入力の設定が有効ではないとき

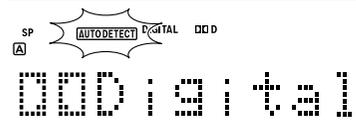
表示	設定
"Full Auto"	入力信号にあわせてデジタルとアナログを切り換えます。デジタル信号を検出した場合は、信号の種類 (PCM/Dolby Digital/DTS/AAC) にあわせてデコードモードを切り換えます。
"Digital Manual"	入力モードをデジタルに固定することによって入力信号の処理を早め、再生時の頭切れをなくします。 デコードモードは再生する信号の種類に固定されます。
"6ch Input"*[1]*[2]	アナログ6ch入力モードです。 DVD/6CH IN端子に接続されているDVDプレーヤーを再生するときに選びます。
"Analog"*[2]	入力モードをアナログに固定します。 アナログ再生機器を再生するときに選びます。

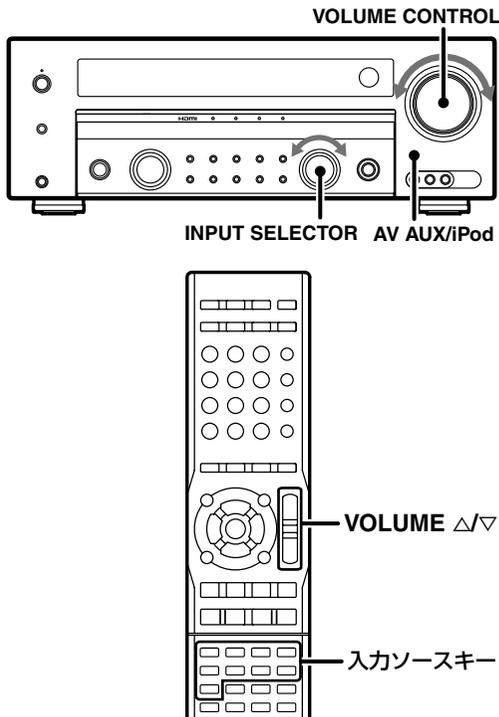
*[1] "6ch Input"設定はインプットセレクターが"DVD (6ch In)"のときのみ設定できます。

*[2] DTSを再生時は設定できません。

HDMI入力の設定を有効にしているとき (入力ソースはDVDとVIDEO2のみ)

表示	設定
"Signal Auto"	デジタル信号の種類 (PCM/Dolby Digital/DTS/AAC) にあわせてデコードモードを切り換えます。
"Signal Manual"	デコードモードは再生するデジタル信号の種類に固定されます。

• "Full Auto"または"Signal Auto"を選択しているときは、"AUTO DETECT"インジケーターが点灯します。

• "Digital Manual"を選択中に入力信号の切り換わりによって音声が出なくなった場合は、[LISTEN MODE]キーを押してください。

再生する

1 再生する機器を選ぶ。

リモコンの各入力ソースキーを押します。
または本体の[INPUT SELECTOR]つまみと[AV AUX/iPod]キーで選びます。

2 選んだ機器を操作して再生を始める。

iPodの操作は本機からできます。(「iPodを使う」→44)

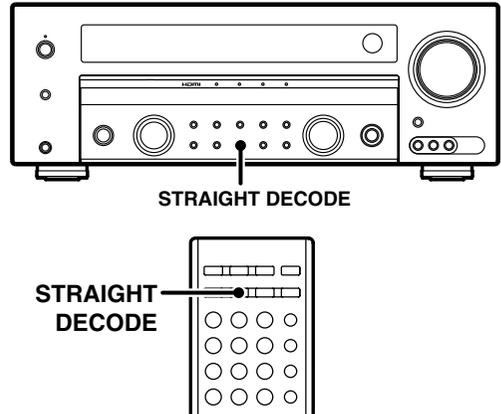
3 [VOLUME △/▽]で音量を調節する。

4 色々な臨場感を楽しむ。

さまざまなリッスンモードを楽しむことができます。(「リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ」→47)
また、選んだ入力ソースに合わせて細かい調整もできます。(「再生するソースに合わせた調整」→56)

- 本体の[INPUT SELECTOR]つまみではAV AUXとiPod は選べません。本体の[AV AUX/iPod]キーかリモコンの[AV AUX]または[iPod]キーで選んでください。

入力ソースの音源のままで鑑賞する(ストレートデコードモード)

入力ソースの音源に音場効果を加えずにそのまま出力します。

1 再生したいソースを選ぶ。

2 再生機器側で再生の操作をする。

3 [STRAIGHT DECODE]を押す。

ストレートデコードモード時は、リッスンモードは入力信号に合わせて自動的に選択されます。(「入力信号と対応するリッスンモード」→48)

"STRAIGHT"インジケーターが点灯します。

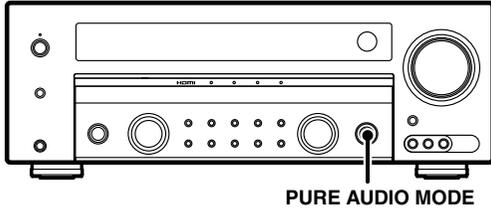
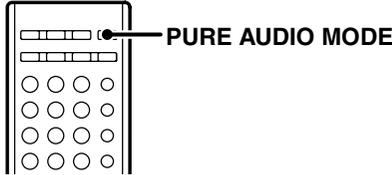
解除するには

[STRAIGHT DECODE]を押す。

[LISTEN MODE]が操作されたときにもストレートデコードモードは解除されます。

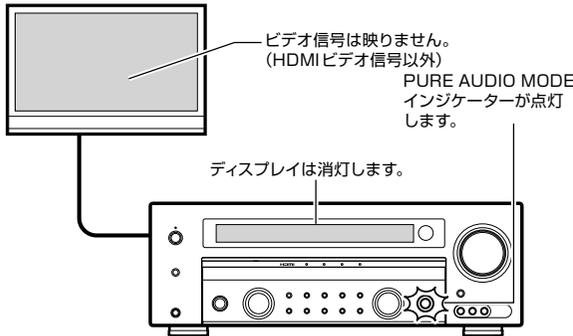
- 入力モードが"6ch Input"のときには、リッスンモードは変わりません。(「入力モードの設定」→40)
- 入力信号の数がお使いのスピーカーより多い場合は、信号はお使いのスピーカーに合わせて自動的に振り分けられます。

ピュアオーディオモードで音楽を聴く

ピュアオーディオモードは、ディスプレイを消灯しビデオ回路（HDMI以外）をオフにすることによってオーディオ回路への影響を抑えます。高音質で、より原音に忠実な音を楽しめるモードです。

1 再生したいソースを選ぶ。

2 再生機器側で再生の操作をする。

3 [PURE AUDIO MODE] を押す。

ピュアオーディオモード時は、リッスンモードは入力信号に合わせて自動的に選択されます。（「入力信号と対応するリッスンモード」→48）
ディスプレイは消灯します。

解除するには

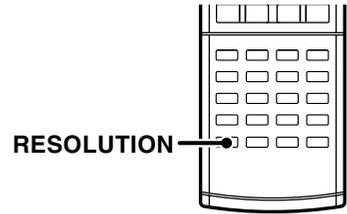
[PURE AUDIO MODE] を押す。

[LISTEN MODE] や [STRAIGHT DECODE] キーが押されたときにもピュアオーディオモードは解除されます。

- 入力モードが"6ch Input"のときには、リッスンモードは変わりません。（「入力モードの設定」→40）
- ピュアオーディオモード時は、HDMI入力以外の映像は映りません。
- HDMI出力へ変換されたアナログ映像（VIDEO、S-VIDEOおよびD端子入力）は映りません。

映像の解像度を切り換える

● リモコンのみで操作できます。

アナログ映像（VIDEO、S-VIDEOおよびD端子入力）をアップコンバージョンしてHDMI出力するときの映像の解像度を切り換えます。

1 [RESOLUTION] を押して解像度を切り換える。

押すたびに以下のように切り換わります。

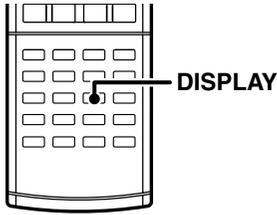
表示	設定
"RES Auto"	接続しているテレビに合わせて自動で調整します。
"RES 1080p"	1920 x 1080p
"RES 720p"	1280 x 720p
"RES 1080i"	1920 x 1080i
"RES 480p/576p"	720 x 480p、720 x 576p

- 接続しているテレビによって選択できる解像度は変わります。

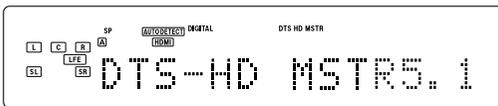
音楽や映画を鑑賞する

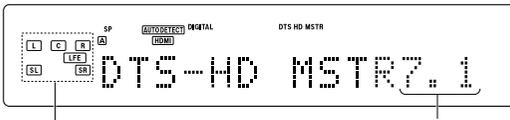
接続機器からのHDMI音声入力信号を確認する

● リモコンのみで操作できます。

接続機器からのＨＤＭＩ音声入力信号とそのチャンネル数を確認できます。

1 [DISPLAY] を押す。

HDMIの入力信号とそのチャンネル数が数秒間表示されます。

例 : DTS-HD Master Audio 5.1チャンネルの場合

- 映像コンテンツによっては、インプットチャンネルインジケーターで表す音声信号よりも多い音声信号が記録されている場合があります。これは記録時に標準的なスピーカー配置とは違った配置で記録されることがあるためです。この場合、標準的なスピーカー配置と合致する音声信号のインプットチャンネルインジケーターのみが点灯します。総チャンネル数はディスプレイで確認できます。

  例 : 総チャンネル数が7.1chで、本機と合致するチャンネルが5.1chの場合（インプットチャンネルインジケーターが5.1ch）

インプットチャンネルインジケーター　　総チャンネル数

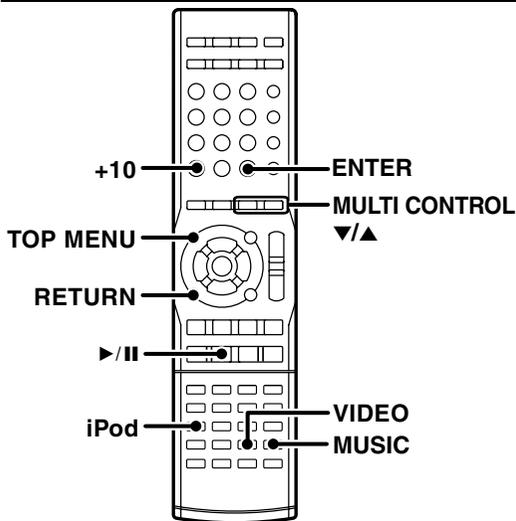
- 上記のような場合でも、本機のスピーカー設定に合わせて最適な再生を行います。（スピーカーリマッピング機能）

iPodを使う

PNC-iP120(別売) を使って本機のiPod端子にiPodを接続すると、本機からiPodの操作が出来ます。

準備をしましょう

- iPodのTV出力をオンにする。(ビデオ対応のiPodのみ)
- iPodのTV信号の設定をNTSCにする。(ビデオ対応のiPodのみ)
- PNC-iP120(別売) でiPodを本機の背面のiPod端子に接続する。
  接続は本機の電源がオフ (スタンバイ状態) のときに行ってください。
- 本機の電源を入れる。

メニューを使う

1 [iPod] を押して入力ソースをiPodにする。

2 [TOP MENU] を押してメニューモードに入る。

ビデオ対応のiPodでない場合は、手順5に進みます。

3 ビデオ対応のiPodのみ

[MULTI CONTROL ▼/▲]でメニューのカテゴリー ("VIDEO"または"MUSIC") を選ぶ。

VIDEO

4 [ENTER] を押して次へ進む。

5 [MULTI CONTROL ▼/▲] で項目を選ぶ。

6 [ENTER] を押して次へ進む。

7 手順4と手順5を繰り返して、再生したい曲を選ぶ。

第3階層以降の階層で項目が多い場合は、[+10]キーで10項目ずつスキップすることができます。

曲を選択して[ENTER]または[▶/II]キーを押すと、再生が始まります。

違うカテゴリーのメニューを選ぶには (ビデオ対応のiPodのみ)

リモコンの [MUSIC] または [VIDEO] キーを押す。

上の階層へ戻るには

リモコンの [RETURN] キーを押す。

- 再生したいプレイリストやアルバム、アーティスト、ジャンルなどを選んで [▶/II] キーを押すと、その項目に含まれるすべての曲を再生します。
- 本機に対応しているiPodについては「本機で使用できるiPodについて」→9 をご覧ください。
- 選択したメニューの項目にデータが無いときには、"No Data"と表示されます。
- iPodを本機に接続している間は、本機または本機に付属のリモコンでiPodの操作をします。iPodを本機に接続している間は、iPod側では操作できません。
- メニューの項目や順序はiPodの機種によって異なる場合があります。

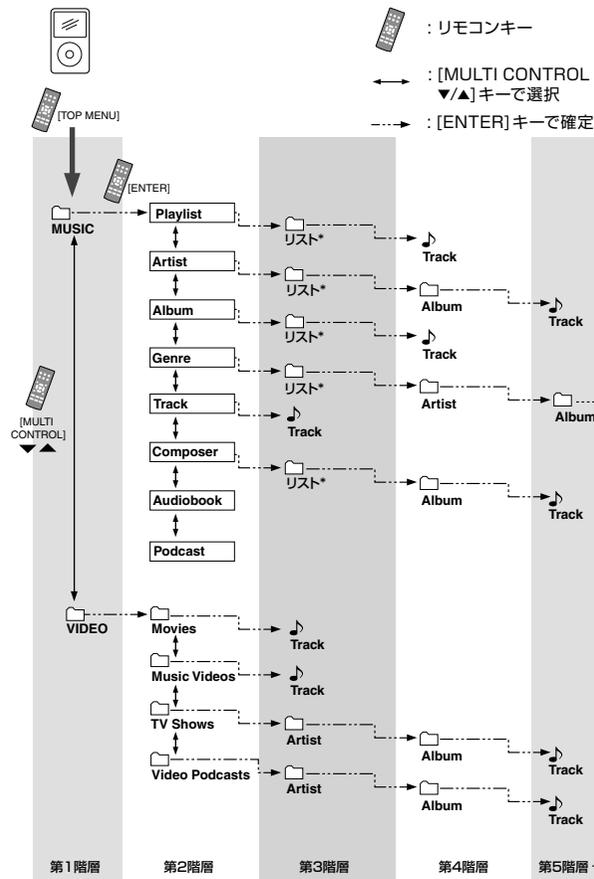
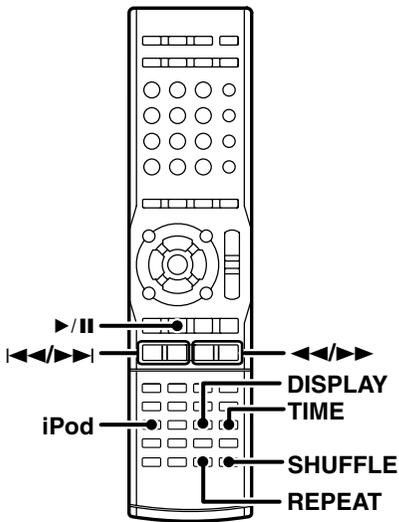
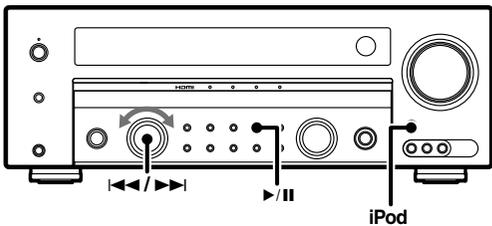
メニュー例

* リスト: 選んだ項目のリスト

音楽や映画を鑑賞する

iPod の操作

再生と一時停止

[▶/II] キーを押す。

再生中に [▶/II] キーを押すと、再生を一時停止します。
再生中は再生中のファイル名が表示されます。

ファイルスキップ

[◀◀] または [▶▶] キーを押す。

再生中に [◀◀] キーを押した場合は、再生中のファイルの先頭から再生を始めます。

早送り／早戻し

● リモコンのみで操作できます。

[◀◀] または [▶▶] キーを押す。

再生を始めたいところまでキーを押し続けます。
早送り／早戻し中は「時間表示の切り換え」で設定している内容が表示されます。

リピート再生

● リモコンのみで操作できます。

[REPEAT] キーを押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示	設定
"Repeat One"	1曲リピート再生
"Repeat All"	全曲リピート再生
"Repeat Off"	リピート再生をオフにします。

シャッフル再生

● リモコンのみで操作できます。

[SHUFFLE] キーを押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示	設定
"Shuffle Track"	曲（ファイル）をランダムに再生します。
"Shuffle Album"	アルバムごとにランダムに再生します。
"Shuffle Off"	シャッフル再生をオフにします。

表示の切り換え

● リモコンのみで操作できます。

テキスト表示を切り換えます。

再生または一時停止中に [DISPLAY] キーを押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示内容
曲名（ファイル名）表示
アルバム名表示
アーティスト名表示

選択した表示内容はスクロール表示されます。

- 本機で表示できる文字については「本機で使用できるiPodについて」→ 9 をご覧ください。

時間表示の切り換え

● リモコンのみで操作できます。

時間表示を切り換えます。

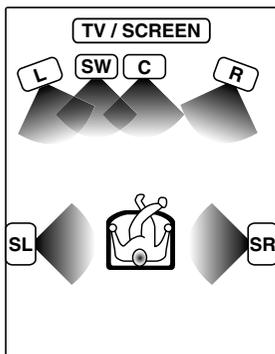
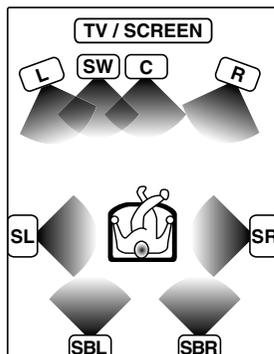
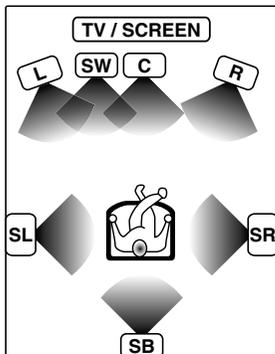
再生または一時停止中に [TIME] キーを押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

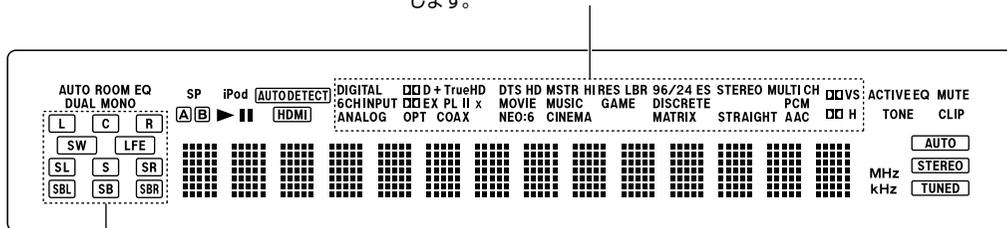
内容
ファイル番号 と 再生経過時間
ファイル番号 と 再生のこり時間
再生中のファイル番号／選択されている項目に入っている全ファイル数

リッスンモード

本機のリッスンモードを使って、色々な種類の映像ソフトで臨場感を楽しめます。サラウンドサウンドを最高の状態でお楽しみいただくため、ご使用前にスピーカーの設定を行ってください。

5.1ch サラウンドサウンドシステム

7.1ch サラウンドサウンドシステム

6.1ch サラウンドサウンドシステム

L： 左フロントスピーカー
SW： サブウーファー
C： センタースピーカー
R： 右フロントスピーカー
SL： 左サラウンドスピーカー
SR： 右サラウンドスピーカー
SB： サラウンドバックスピーカー
SBL： 左サラウンドバックスピーカー
SBR： 右サラウンドバックスピーカー

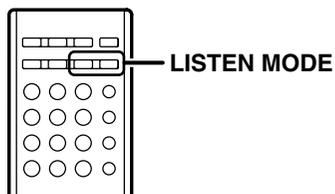
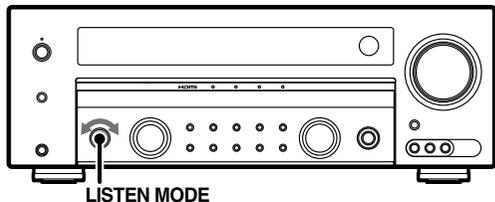
インジケーターについて

リッスンモード／入力信号フォーマットインジケーター
選択されたリッスンモードのインジケーターが点灯します。
デジタル信号が入力されたときには、"Digital"インジケーターも点灯します。

インプットチャンネルインジケーター
再生している音楽や映像についてどんなチャンネルが入力されているか表しています。

• リッスンモードのチャンネルではありません。

"LFE"インジケーターはLFEチャンネルが入力されていると点灯します。LFEのレベルは調整できます。（「LFE(Low Frequency Effect)レベル –"LFE Level"–」 →35）
"S"インジケーターはサラウンド信号が1つのチャンネルの場合に点灯します。

リッスンモードを使ってサラウンド再生を楽しむ

再生するソースに合わせてリッスンモードを選びます。

準備をしましょう

- 使用する機器の電源をオンにする。
- 「スピーカーの設定」を確認する。
- 再生するソースを選ぶ。
- 入力モードの設定をする。➡40
  （入力モードが"Full Auto"または"Signal Auto"に設定されていると("AUTO DETECT"インジケーターが点灯)、入力信号のタイプやスピーカーの設定に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。また入力モードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズが出ることがあります。）

1 選んだソースを再生する。

2 [LISTEN MODE]で、リッスンモードを選ぶ。

押すたびにリッスンモードが切り換わります。

リッスンモードの種類については「入力信号と対応するリッスンモード」➡48 を参照してください。

臨場感を楽しむ

入力信号と対応するリッスンモード

Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Digital Plus および Dolby TrueHD ソース

接続している音声入力端子	HDMI、光デジタル、同軸デジタル			HDMI								
入力信号	Dolby Digital / Dolby Digital EX			Dolby Digital Plus				Dolby TrueHD (～96kHz)				Dolby TrueHD (176.4kHz/192kHz)
リッスンモード	*/2	2ch	その他	*/2	*/3 */4	2ch	その他	*/2	*/3 */4	2ch	その他	
Dolby Digital	○	○	○									
Dolby Digital + Pro Logic IIx Movie*[1]	○											
Dolby Digital + Pro Logic IIx Music*[3]	○											
Dolby Digital EX*[3]	○											
Dolby Digital Plus				○	○	○	○					
Dolby Digital Plus + Pro Logic IIx Movie*[1]				○								
Dolby Digital Plus + Pro Logic IIx Music*[3]				○								
Dolby Digital Plus + Dolby EX*[3]				○								
Dolby TrueHD								○	○	○	○	○
Dolby TrueHD + Pro Logic IIx Movie*[1]								○				
Dolby TrueHD + Pro Logic IIx Music*[3]								○				
Dolby TrueHD + Dolby EX*[3]								○				
Pro Logic IIx Movie/ Pro Logic II Movie*[2]		○				○				○		
Pro Logic IIx Music/ Pro Logic II Music*[2]		○				○				○		
Pro Logic IIx Game/ Pro Logic II Game*[2]		○				○				○		
Pro Logic		○				○				○		
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*[1] 左右両方のサラウンドバックスピーカーを接続しているときのみ選べます。(7.1チャンネル)

*[2] サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Pro Logic IIになります。

*[3] サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。

- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないリッスンモードがあります。
- サラウンド効果が得られない場合や、お好みのリッスンモードが選べない場合は、下記をご確認ください。
  - スピーカーの設定
  - 入力モードの設定
  - 再生機器側の音声の設定
- デジタル入力信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、現在のスピーカー設定に合うように自動的にダウンミキシングされます。

入力信号について

「入力信号と対応するリッスンモード」の表の入力信号の欄の"*/2"や"*/3"等は、入力信号にエンコードされているチャンネルを表しています。これらの信号が入力されると本体ディスプレイのインプットチャンネルインジケーターが以下のように点灯します。

*/2 : [L]、[C]、[R]、[SL]、[SR] または [L]、[R]、[SL]、[SR]

*/3 : [L]、[C]、[R]、[SL]、[SR]、[SB] または [L]、[R]、[SL]、[SR]、[SB]

*/4 : [L]、[C]、[R]、[SL]、[SR]、[SBL]、[SBR] または [L]、[R]、[SL]、[SR]、[SBL]、[SBR]

2ch : [L]、[R]

その他 :Dual Mono ([L]、[R])、3/0 ([L]、[C]、[R])、3/1 ([L]、[C]、[R]、[S])

- "LFE"と"S"インプットチャンネルインジケーターについては「インジケーターについて」→46 をご覧ください。

DTS、DTS 96/24、DTS-ES ソース

接続している音声入力端子	HDMI、OPTICAL、COAXIAL								
入力信号 ／ リッスンモード	DTS			DTS 96/24			DTS 96/24 ES Matrix	DTS-ES Discrete	DTS-ES Matrix
	*/2	2ch	その他	*/2	2ch	その他	*/2	*/3	*/2
DTS	○	○	○					○	○
DTS + Neo:6*[3]	○								
DTS-ES Discrete*[3]								○	
DTS-ES Matrix*[3]									○
DTS 96/24				○	○	○	○		
DTS 96/24 + Neo:6*[3]				○					
DTS 96/24 ES Matrix							○		
Neo:6 Cinema		○			○				
Neo:6 Music		○			○				
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*[3] サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。

DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Low Bit Rate Audioソース

接続している音声入力端子	HDMI												
入力信号 ／ リッスンモード	DTS-HD Master Audio (～96kHz)				DTS-HD Master Audio (176.4kHz/192kHz)	DTS-HD High Resolution Audio				DTS-HD Low Bit Rate Audio			
	*/2	*/3 */4	2ch	その他		*/2	*/3 */4	2ch	その他	*/2	*/3 */4	2ch	その他
DTS-HD Master Audio	○	○	○	○	○								
DTS-HD Maser Audio + Neo:6*[3]	○												
DTS-HD High Resolution Audio						○	○	○	○				
DTS-HD High Resolution Audio + Neo:6*[3]						○							
DTS-HD Low Bit Rate										○	○	○	○
DTS-HD Low Bit Rate + Neo:6*[3]										○			
Neo:6 Cinema			○					○				○	
Neo:6 Music			○					○				○	
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*[3] サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。

入力信号と対応するリッスンモード

AAC, PCM およびアナログソース

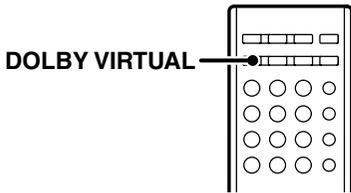
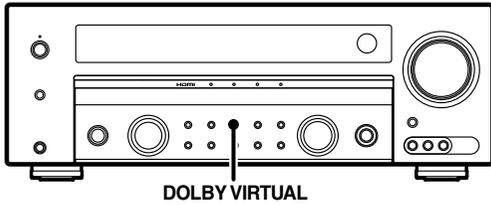
接続している音声入力端子	HDMI、光デジタル、同軸デジタル			HDMI		HDMI、光デジタル、同軸デジタル	HDMI	音声入力
入力信号	AAC			PCM				アナログ
リッスンモード	*/2	2ch	その他	*/2	*/3 */4	2ch 96kHz以下	2ch 96kHz超	
AAC	○	○	○					
AAC + Pro Logic IIx Movie*[1]	○							
AAC + Pro Logic IIx Music*[1]	○							
AAC + Dolby EX	○							
Pro Logic IIx Movie/ Pro Logic II Movie*[2]		○				○		○
Pro Logic IIx Music/ Pro Logic II Music*[2]		○				○		○
Pro Logic IIx Game/ Pro Logic II Game*[2]		○				○		○
Pro Logic		○				○		○
Neo:6 Cinema		○				○		○
Neo:6 Music		○				○		○
PCM				○	○			
Stereo	○	○	○	○*[4]	○*[4]	○	○	○

*[1] 左右両方のサラウンドバックスピーカーを接続しているときのみ選べます。（7.1チャンネル）

*[2] サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Pro Logic IIになります。

*[4] DVD-Audio のコンテンツによっては選べないことがあります。

バーチャルモード

ヘッドホンをお使いのときやフロントスピーカーだけ接続しているときでも臨場感あふれるサウンドを楽しむことができるモードです。

1 [DOLBY VIRTUAL] を押す。

押すたびに以下のように切り換わります。

Dolby Virtual Speaker モード
(ヘッドホンを使用していないとき)

表示	設定
"Dolby VS Wide"	仮想化したサラウンド効果にさらに広がりと空間をもたせます。
"Dolby VS Ref"*	仮想化したサラウンド効果が得られます。標準的な設定です。
"Dolby VS Off"	Dolby Virtual Speaker モードをオフにします。

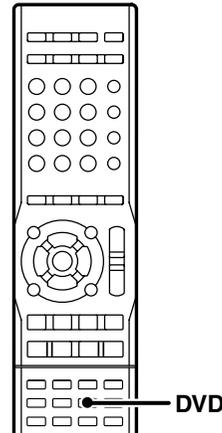
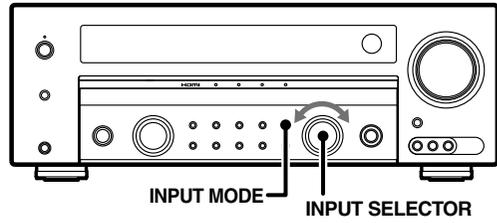
* サラウンドスピーカーの設定がオフのときに選べます。

Dolby Headphone モード
(ヘッドホンを使用しているとき)

表示	設定
"Dolby H On"	Dolby Headphone モードをオンにします。仮想化したサラウンド効果が得られます。
"Dolby H Off"	Dolby Headphone モードをオフにします。

- バーチャルモードでは、再生する信号によっては選べないリッスンモードがあります。
- サンプリング周波数が 176.4kHzまたは196kHzの場合は、バーチャルモードはオフになります。

DVD6チャンネルアナログ入力

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤーを使ってサラウンド再生を楽しむことが出来ます。

準備をしましょう

- **DVDプレーヤーをDVD/6CH INPUT端子に接続する。**
- **使用する関連機器の電源をオンにする。**

1 入力ソースを"DVD"にする。

2 [INPUT MODE]を押して、"DVD (6ch IN)"にする。

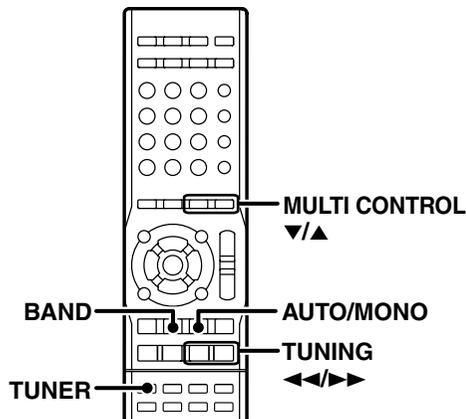
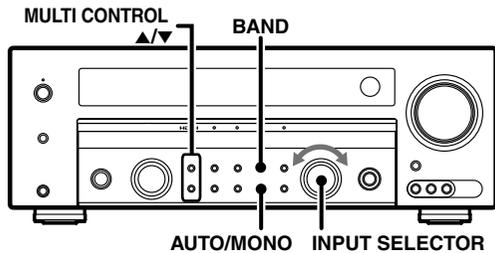
3 DVDを再生する。

- DVD 6CH 入力モードではスピーカーレベルの調整や音質の調整はできません。([SETUP]、[SOUND]、[LISTEN MODE]、[ACTIVE EQ]、[TONE]キーは無効です。)スピーカーの音量を調節したい場合は、DVDプレーヤー側で行ってください。DVDプレーヤーの操作のしかたは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- HDMI入力の設定で"DVD A/V"が選択されているときは使えません。(「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」→36)

臨場感を楽しむ

ラジオ放送を受信する

本機はラジオ放送を最大40局まで記憶することができます。また記憶させた放送局をワンタッチで呼び出せます。

ラジオ放送の受信には、必ずアンテナを接続してください。(「アンテナの接続」→25)

1 入力ソースをTUNERにする。

2 [BAND] を押して、放送バンドを選ぶ。

押すたびに放送バンドが切り換わります。
① **FM**
② **AM**

3 [AUTO/MONO] を押して選局方法を選ぶ。

押すたびに選局方法が切り換わります。

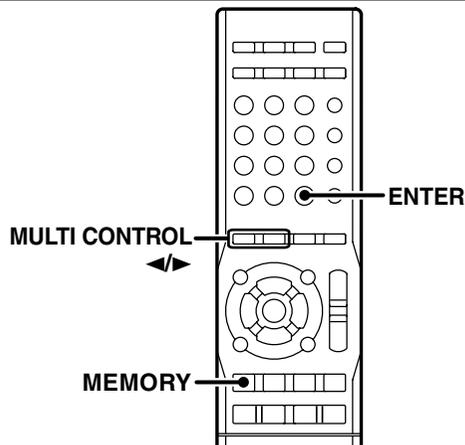
設定	動作	表示
オート選局	受信できる放送局を自動的に選びます。	"AUTO" が点灯
マニュアル選局	手動で放送局を選びます。	"AUTO" は消灯

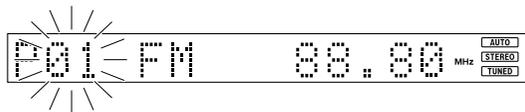
通常はオート選局にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときにはマニュアル選局にします。マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。

4 [TUNING ◄◄/►►] で放送局を選ぶ。

放送局を受信すると "TUNED" が点灯します。
ステレオ放送を受信すると "STEREO" が点灯します。

- [MULTI CONTROL ▼/▲] でも放送局を選べます。

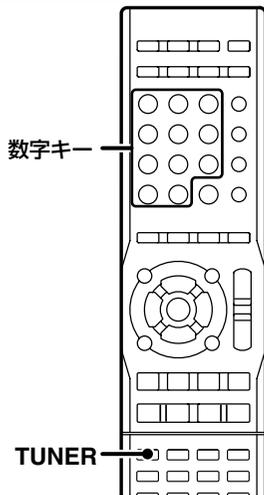
放送局をプリセットする

1 プリセットしたい放送局を受信する。

2 受信中に [MEMORY] を押す。

20 秒以内に手順３へ進みます。
20秒以上経った場合は、もう一度 [MEMORY] を押してください。

3 [MULTI CONTROL ◄/►] でプリセット番号（1 ～ 40) を選ぶ。

4 [ENTER] を押して確定する。

手順１から４を繰り返して、他の放送局をプリセットします。
同じプリセット番号に重ねて記憶させると、新しい内容に変更できます。

プリセットした放送局を受信する

1 入力ソースをTUNERにする。

2 受信したい放送局のプリセット番号を押す(最大"40"まで)。

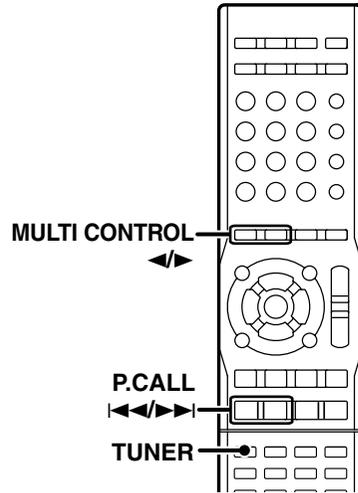
数字キーを押す順序は:

プリセット番号15なら: [+10]、[5]

プリセット番号20なら: [+10]、[+10]、[0]

プリセット番号

- 10の桁を押し間違えたときは、[+10]を数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

プリセットした放送局を順に聴く(P.CALL)

1 入力ソースをTUNERにする。

2 [P.CALL I◄◄/►►I]で選局する。

キーを押すたびにプリセットされている放送局が順に切り換わります。

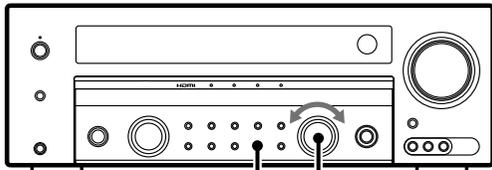
[P.CALL I◄◄/►►I]を押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。

- [MULTI CONTROL ◄/►]でもプリセットされている放送局を選べます。

デジタル音声ソースの録音モード設定

● 本体のみで操作できます。

マルチチャンネルのデジタル音声ソースを録音するときには、デジタル入力をアナログ2チャンネルに正しく変換するために録音モードの設定をおすすめします。通常は"A-REC"(オート録音)モードに設定してください。

まれに"A-REC"(オート録音) モードで録音すると音切れが起きるソースがあります。このような場合には、"M-REC"(マニュアル録音) モードにしてください。

1 [INPUT SELECTOR]で録音したいデジタル入力ソースを選ぶ。

デジタル入力ソースとは背面のデジタル入力端子（光および同軸端子）のソースです。CD(ASSIGNABLE) 端子は入力割り当ての設定にしたがってください。（「入力割り当て─"Assignment"─」→35）

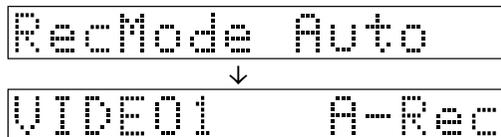
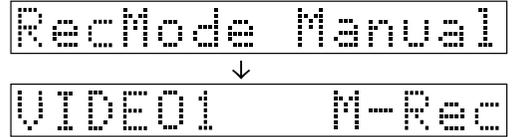
2 カセットデッキまたはMDレコーダーを録音待機状態にする。

3 [AUTO/MONO]を２秒以上押して録音モードを選ぶ。

録音モード	表示	動作
録音モードオフ	"RecMode Off"	デジタル入力の録音モード設定はしません。
オート録音モード	"RecMode Auto"	デジタル入力信号 (DTS、Dolby Digital、AAC または PCM) 自動的に判別し、ステレオ信号にダウンミックスします。
マニュアル録音モード	"RecMode Manual"	マニュアル録音モードを選択した時点でのデジタル入力信号をステレオ信号にダウンミックスします。 他のデジタル入力信号に変わったときにはダウンミックスしません。

オート録音モードでは、デジタル入力信号が切り換わっても、ステレオ信号にダウンミックスします。

オート録音モードで録音中にデジタル入力信号が切り換わった場合、音が一瞬途切れる場合があります。

オート録音モードのとき

マニュアル録音モードのとき

4 録音したい入力ソースの再生を始めて、録音を開始する。

録音中に、入力信号の切り換わりなどの理由により音声の再生が止まった場合は、[AUTO/MONO]を押します。

• HDMI入力をオンに設定していると、録音モードの設定に入れません。

録音のしかた（アナログソース）

1 [INPUT SELECTOR]で録音したい入力ソース("MD/TAPE"以外)を選ぶ。

2 カセットデッキまたはMDレコーダーを録音待機状態にする。

3 録音したい入力ソースの再生を始めて、録音を開始する。

録画のしかた

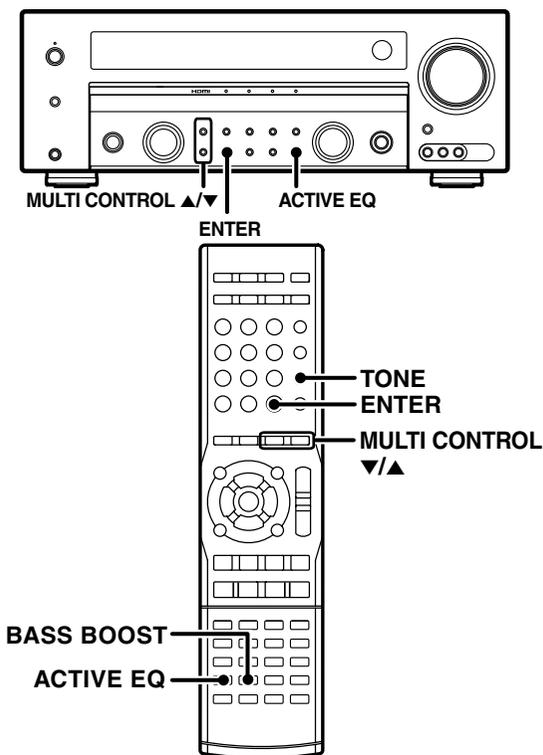
1 [INPUT SELECTOR]で録画したい入力ソース("VIDEO 1"以外)を選ぶ。

2 ビデオレコーダーを録画待機状態にする。

デジタルソースを録画する場合は、録音モードの設定をしてください。（「デジタル音声ソースの録音モード設定」）

3 録画したい入力ソースの再生を始めて、録画を開始する。

録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き録画できないことがあります。

音を調節する

Active EQ モード

用途に合わせて最適な音場効果を楽しめます。

[ACTIVE EQ] を押してモードを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

表示	設定
"Active EQ Music"	音楽を聞くのに最適なモードです。
"Active EQ Cinema"	映画を観るのに最適なモードです。
"Active EQ Game"	ゲームを楽しむときに最適なモードです。
"Active EQ Off"	Active EQ をオフにします。

"ACTIVE EQ"インジケーターが点灯します。

トーンレベル

● リモコンのみで操作できます。

入力信号がPCMかアナログのときで本機のリッスンモードがステレオのとき、またActive EQモードがオフのときに設定できます。

1 [TONE] を押す。

2 トーンレベルを調節するかしないか選ぶ。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で "Tone On" または "Tone Off" を選ぶ。

Tone On

[ENTER]

表示	設定
"Tone On"	トーンレベルを調整します。手順3に進みます。
"Tone Off"	トーンレベルは調整しません。

3 "Bass" (低音域) を調節する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で好みのレベルにする。

Bass +6

[ENTER]

-10 ～ +10の範囲で調節できます。

4 "Treble" (高音域) を調節する。

[MULTI CONTROL ▼/▲] で好みのレベルにする。

Treble -10

[ENTER]

-10 ～ +10の範囲で調節できます。

バスブースト

● リモコンのみで操作できます。

入力信号がPCMかアナログのときで本機のリッスンモードがステレオのとき、またActive EQモードがオフのときに設定できます。

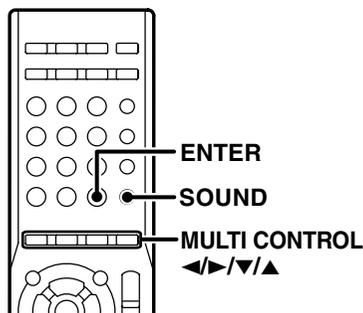
[BASS BOOST] を押す。

Bass(低音)レベルが最大値(+10)に設定されます。
トーンが自動的にオンになります。

解除するには

[BASS BOOST] を押す。

再生するソースに合わせた調整

再生しているソースに合わせてお好みで音を調整することができます。

1 [SOUND]キーを押してサウンド調整モードに入る。

2 [MULTI CONTROL ◄/►]キーを押して調整したい項目を選ぶ。

表示	設定項目	設定範囲	
"CNTR"	センタースピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SR"	右サラウンドスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SBR"	右サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SB"	サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	*1
"SBL"	左サラウンドバックスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SL"	左サラウンドスピーカーレベル	-10 ～ +10dB	
"SUBW"	サブウーファーレベル	-10 ～ +10dB	
"INPUT"	入力レベル	-6、-3、0	*2
"PANORAMA"	パノラマモードのオン／オフ	"On"、"Off"	
"Dimension"	ディメンション		*3
"Center Width"	センター幅		
"Center Image"	センターイメージ		*4
"Midnight"	ナイトモード	"Auto"、"1"、"2"、"Off"	*5
"Dual Mono"	デュアルモノ音声選択	"Main"、"Sub"、"Main+Sub"、"Stereo"	

*1 スピーカーレベルの調整は一時的な設定です。電源のオン/オフやインプットソースの切り換えをすると、スピーカー設定で調整した値に戻ります。

*2 アナログ入力のみ。

*3 Pro Logic IIx Musicモードおよび Pro Logic II Musicモードのみ。

*4 Neo:6 Musicのみ。

*5 "Auto"はDolby TrueHDソースのみ。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲]キーで設定したい項目の調整をする。

詳しい設定のしかたは、各項目の説明を参照してください。

サウンド調整モードをやめるには

[SOUND]キーを押す。

スピーカーレベルの調整

再生しているソースに合わせてスピーカーレベルの詳細な設定ができます。

この調整は現在の入力ソースにのみ有効です。電源のオン/オフやインプットソースの切り換えをすると、スピーカー設定で調整した値に戻ります。

1 [MULTI CONTROL ◄/►]で調整したいスピーカー ("CNTR"、"SR"、"SBR"、"SB"、"SBL"、"SL"または"SUBW")を選ぶ 。

CNTR 0dB

2 [MULTI CONTROL ▼/▲]でレベルを調整する。

CNTR +6dB

3 手順1と2を繰り返して他のスピーカーのレベルを調整する。

入力レベルの調整

● アナログソースのみ。

アナログ入力信号の入力レベルが高すぎる場合には、CLIPインジケーターが点灯します。入力レベルを調整してください。

1 [MULTI CONTROL ◄/►]で"INPUT"を選ぶ。

2 [MULTI CONTROL ▼/▲]で入力レベルを調整する。

パノラマ

● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

フロントチャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで広げることで前方の音の広がりを作ります。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で "PANORAMA" を選ぶ。

PANORAMA Off

2 [MULTI CONTROL ▼/▲] で "On" または "Off" を選ぶ

① "PANORAMA On":　PANORAMAモードオン
② "PANORAMA Off":　PANORAMAモードオフ

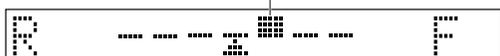
ディメンション

● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

音場の中心を前方または後方へ移動させて調整します。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で "Dimension" を選ぶ。

2 [ENTER] を押す。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲] で音場を前後に調節する。

センター幅

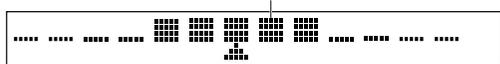
● Pro Logic IIx Music およびPro Logic II Music モードのみ。

センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーに振り分けて前方の音の幅を広げます。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で "Center Width" を選ぶ。

Center Width

2 [ENTER] を押す。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲] で音場を左右に調節する。

インジケーターが左右へ広がるほど、より多くのセンターチャンネルの音声が左右のフロントスピーカーに振り分けられます。

• センタースピーカーの設定がオフの場合は、本設定はできません。

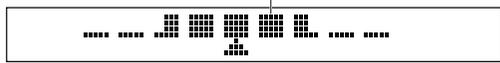
センターイメージ

● DTS Neo:6 Music モードのみ。

センタースピーカーの出力を調整します。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で "Center Image" を選ぶ。

2 [ENTER] を押す。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲] でセンタースピーカーの出力を調節する。

インジケーターが左右へ広がるほど、より多くのセンターチャンネルの音声が左右のフロントスピーカーに振り分けられます。

• センタースピーカーの設定がオフの場合は、本設定はできません。

ミッドナイトモード

● Dolby TrueHD、Dolby Digital およびDTSモードのみ。

夜中に映画を観るときなど、音量を大きくできないことがあります。ミッドナイトモードはDolby Digital やDTSの映像ソフトであらかじめ指定されている部分（急に音量が大きくなるシーンなど）について音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、他の部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聞きやすくなります。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で"Midnight"を選ぶ。

2 [ENTER] を押す。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲] で"□□TrueHD"または"□□D/DTS"を選ぶ。

① "□□TrueHD":　Dolby True HDモードのときに選びます。
② "□□D/DTS":　Dolby DigitalまたはDTSモードのときに選びます。

4 [ENTER] を押す。

5 [MULTI CONTROL ▼/▲] でミッドナイトモードのレベルを選ぶ。

① "NIGHT Auto"* :　ミッドナイトモード オート
② "NIGHT 1":　ミッドナイトモード レベル1
③ "NIGHT 2":　ミッドナイトモード レベル2
④ "NIGHT Off":　ミッドナイトモード オフ

* "NIGHT Auto"は手順３で"TrueHD"を選んだときのみ選択できます。

• Dolby Digital や DTS のソフトウェアの中にはミッドナイトモードに対応していないものもあります。

主音声／副音声の切り換え

● Dolby Digital、DTS およびAACモードのみ。

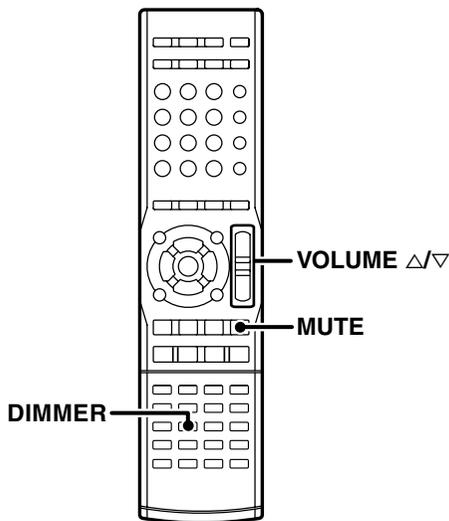
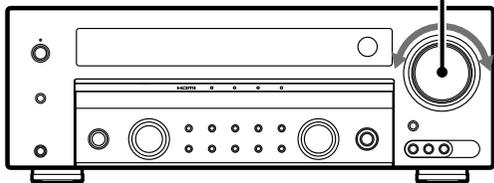
デジタル放送の２カ国語放送、音声多重放送の二重音声放送およびDolby Digitalの音声多重ソースなどを視聴するときには、主音声／副音声を切り換えることが出来ます。

1 [MULTI CONTROL ◄/►] で"Dual Mono"を選ぶ。

2 [ENTER] を押す。

3 [MULTI CONTROL ▼/▲] で音声を選ぶ。

① "Main":　主音声
② "Sub":　副音声
③ "Main+Sub":　主音声＋副音声
④ "Stereo":　主音声が左チャンネル／副音声が右チャンネル

• モノラルではない二重音声放送は、本機で音声を切り換えることはできません。ソース機器側で操作してください。

ディスプレイの明るさを変える

● リモコンのみで操作できます。

本機のディスプレイやフロントパネルのLEDインジケーターの明るさを調節できます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

[DIMMER]を押す。

明るさが3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

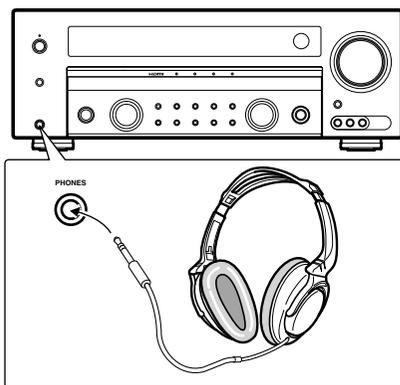
① やや暗い

② 暗い

③ 通常の明るさ

• LEDインジケーターの明るさは2段階で変わります。

ヘッドホンで聴く

1 ヘッドホンをフロントパネルのPHONES端子（6.3mmステレオプラグ）に差し込む。

2 音量を調節する。

• スピーカーシステムはオフになり、スピーカーからは音が出なくなります。

一時的に音を消す

● リモコンのみで操作できます。

[MUTE]を押す。

ディスプレイの"MUTE"インジケーターが点滅します。

MUTEを解除するには

ミュート中に[MUTE]を押す。

音量の調節をしてもミュートは解除されます。

ケンウッドのDVDプレーヤーをリモコンで操作する

本機に付属のリモコンでケンウッド製のDVDプレーヤーを操作できます。

対応DVDプレーヤー

DVF-7060、DVF-3070、DVF-8100

DVDプレーヤーの操作のしかた

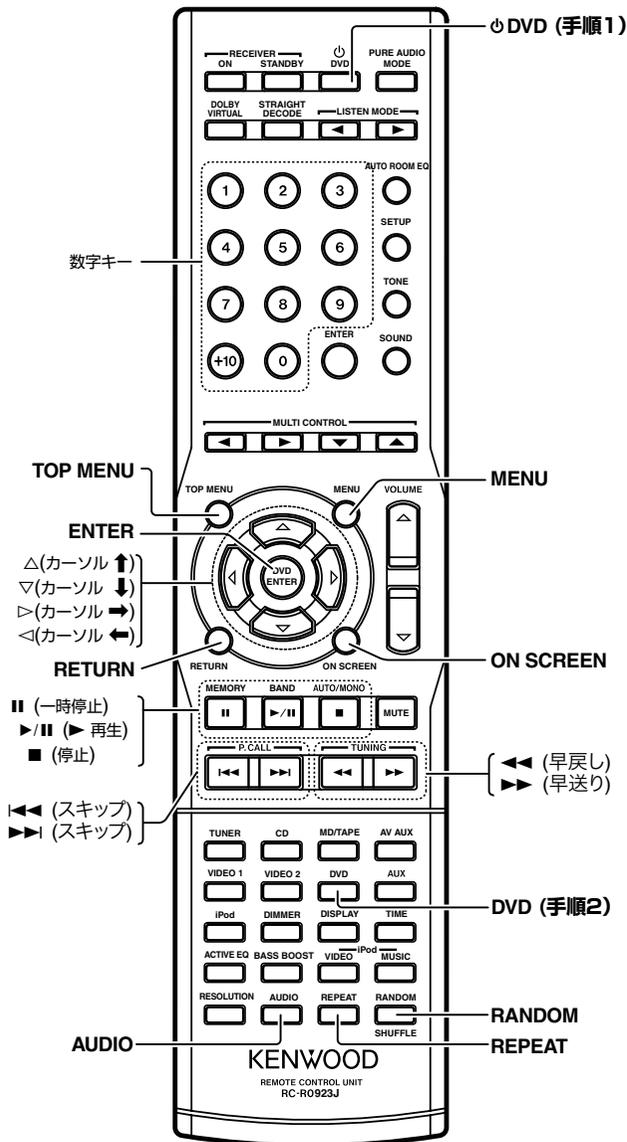
1 [⏻ DVD] を押してDVDプレーヤーの電源をオンにする。

2 [DVD] を押して入力ソースをDVDにする。

[DVD] を押すことにより、リモコンでDVDプレーヤーの操作ができるようになります。

3 本機のリモコンでDVDプレーヤーを操作する。

DVDプレーヤーの操作キー

便利な機能

アンプ部

症状	原因	処置
音が出ない。	スピーカーや関連機器が正しく接続されていない。	「接続のしかた」を参照して正しく接続し直す。 →14 〜 →26
	音量を最小にしている。	適当な音量にする。
	MUTEがオンになっている。	MUTEを解除する。 →59
	スピーカースイッチがオフになっている。	スピーカースイッチをオンにする。→40
	ヘッドホンが差し込まれている。	ヘッドホンを抜く。
	正しい入力ソースが選択されていない。	視聴したい入力ソースを選択する。
	HDMIの設定が有効になっていない。	「HDMIの設定」を参照して、音声入力や出力先の設定を確認する。 →36
	入力モードが正しく設定されていない。	「入力モードの設定」を参照して、正しい入力モードを選択する。 →40
	接続のしかたや接続機器によっては音声信号が出力されない場合があります。	接続する機器に付属の取扱説明書を参照してください。
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	スピーカーコードがショートしている。	電源スイッチをオフにし、ショートを取り除き、再度電源を入れる。ショートを取り除いた後もスタンバイインジケーターが点滅している場合は、故障が考えられます。電源を切り、お近くのサービスセンターにご相談ください。
いずれかのスピーカーから音が出ない。	スピーカーコードが外れている。	「スピーカーの接続」を参照して、正しく接続し直す。 →24
	スピーカーが正しく設定されていない。	「スピーカーの設定」を参照して、正しく設定し直す。 →28 →32 設定し直した後、テストトーンが出るか確認してください。
	リッスンモードによっては音が出ないスピーカーがあります。	-----
希望する信号フォーマットで聞くことができない。(Dolby Digital、DTSまたはAAC)	Dolby Digital、DTSまたはAACの入力信号フォーマットで聞くためには、デジタル接続が必要です。	「接続のしかた」を参照してデジタル入力端子またはHDMI入力端子に接続されているか確認する。 →14 〜 →26
	再生機器の設定がデジタル出力になっていない。	再生機器の取扱説明書を参照して、音声出力の設定を確認する。
Dolby Digital、DTSまたはAACのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	再生機器の種類によって、いろいろな原因があります。	入力モードを"Digital Manual"("Signal Manual")にしてからソースを再生する。 →40
DVDを再生しても音が出ない。	入力モードがデジタルマニュアルに設定されている。	「入力モードの設定」を参照して"Full Auto" ("Signal Auto")を選ぶ。 →40
ビデオ入力からの録画ができない。	コピープロテクトがかかっている。	コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。
デジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	デジタルチューナーのデジタル出力設定がAACになっていない。	デジタルチューナーのデジタル出力の設定をAACにする。
デジタル放送の音声切り換えができない。	放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	デジタルチューナー側で音声を切り換える。
「Ex: XXX」または「Cx: XXX」のようなメッセージが出る。	オートセットアップの測定中に何らかの不具合が検出された。	「エラーメッセージについて」、「確認メッセージについて」を参照してください。 →30 →31

つづく

症状	原因	処置
映像が出ない。または乱れる。	映像機器が正しく接続されていない。	「接続のしかた」を参照して正しく接続し直す。 →14 〜 →26 映像機器と本機をHDMI接続している場合は、映像信号はHDMIモニター出力端子からのみ出力されます。
	接続のしかたや接続機器によっては映像信号が出力されない場合があります。	接続する機器に付属の取扱説明書を参照してください。
	テレビ側での入力が合ってない。	テレビ側の入力を確認する。
	NTSC以外の信号が入力されている。	映像再生機器の映像切換えをNTSCにする。映像再生機器の取扱説明書をご覧ください。
	HDMIの設定で、HDMIの映像入力をオフにしている。	「HDMI入力の設定 –"HDMI Input"–」を参照して、HDMIの設定をし直す。 →36
	ピュアオーディオモードがオンになっている。	ピュアオーディオモードがオンのときは、ビデオ回路がオフになり、HDMI映像入力以外は出力されません。ピュアオーディオモードをオフにしてください。 →42
ディスプレイが消灯している。	ピュアオーディオモードがオンになっている。	ピュアオーディオモードがオンのときは、ディスプレイはオフになります。ピュアオーディオモードをオフにしてください。 →42

チューナー部

症状	原因	処置
放送局が受信できない。	アンテナを接続していない。	アンテナを接続する。 →25
	放送バンドが合っていない。	放送バンドを合わせる。 →52
	受信したい放送局の周波数に合っていない。	受信したい放送局の周波数に合わせる。 →52
雑音が入る。	自動車のイグニッションノイズ。	屋外アンテナを道路から離して設置する。
	他の電気機器の影響によるもの。	電気機器の電源を切ってみる。
	テレビが近くにある。	アンテナをテレビからできるだけ離して設置する。

リモコン部

症状	原因	処置
リモコンで操作できない。	操作したいソースのモードになっていない。	操作したいソースの入力ソースキーを押してから、操作キーを押す。
	ケンウッドのDVDプレーヤーのソースのモードになっていない。	[DVD]キーを押してDVDモードにしてから操作キーを押す。 →60
	電池切れ。	新しい電池と交換する。 →13
	操作する位置が遠すぎる、または角度がずれている。	操作範囲内で操作する。 →13
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除く。
	録音モードがオンのときに操作をしようとしている。	録音モードをオンにしていると操作できない機能があります。録音や録画をしていないときは録音モードをオフにしておいてください。 →54

マイコンをリセットするには

操作できない、ディスプレイが正常に点灯しない、または「故障かな?と思ったら」を参照しても問題が解決しない場合は、マイコンをリセットしてください。

電源プラグを抜き、本体の [⏻] キーを押しながら再度差し込む。

リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります、ご了承ください。

用語集

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズによって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格です。モノから5.1チャンネルまでの高品質なデジタル音声を、通常のPCM音声の数分の一のデータ量で伝送・記録できます。以下の機能が特徴です。

- モノ、ステレオ、プロロジック対応の構成および5.1チャンネル音声の再生に最適なダウンミキシング
- ダイナミックレンジおよび会話のレベル調整に関する情報をデコーダに伝達する機能
- 広範囲のビットレートにわたる動作

Dolby Digital EX/Dolby EX

ドルビーデジタルにバックサラウンドチャンネルを追加することにより、さらなる臨場感と包囲感のあるサラウンド効果を実現します。

Dolby Pro Logic II

ドルビーラボラトリーズによって開発されたマトリックスデコード技術です。あらゆるステレオ音源から臨場感豊かな5チャンネルサラウンド音声を生成します。CDのような通常のステレオ音楽素材にも、優れた立体音場効果を実現することができます。また、映画の再生に適した「Movie」モード、音楽の再生に適した「Music」モード、ゲームを楽しむときに最適な「Game」モードがあります。

Dolby Pro Logic IIx

Dolby Pro Logic IIをさらに改良したマトリックスデコード技術です。あらゆるステレオまたは5.1チャンネルの音声トラックから7.1チャンネルサラウンド音声を生成し、より自然でなめらかなサラウンド音場の再生ができます。また、映画の再生に適した「Movie」モード、音楽の再生に適した「Music」モード、ゲームを楽しむときに最適な「Game」モードがあります。

Dolby Digital Plus

ドルビーデジタルを高音質・高機能に進化させた音声技術です。各チャンネルが完全に独立したマルチチャンネルサラウンドサウンドになっています。対応ビットレートはDolby Digital の 96～640kbps に比べて、32kbps～6Mbpsに対応しています。

また優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1チャンネルの高品質なデジタルサラウンド音声を実現することが可能です。既存のドルビーデジタル搭載のホームシアターシステムとの互換性も確保しています。

Dolby True HD

ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）音声技術です。スタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。96 kHzのサンプリング周波数では最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数では最大5.1チャンネルに対応しています。

Dolby Headphone

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクDSP社（現ドルビーオーストラリア）によって開発された立体音響技術です。ステレオヘッドホンでサラウンド音声を再生できます。

Dolby Virtual Speaker

２本のスピーカーだけを使って、理想的な5.1チャンネルのホームシアター環境を生成するスピーカーバーチャル技術です。

AAC

「Advanced Audio Coding（アドバンスド オーディオ コーディング）」の略称です。デジタル放送などに使用されている画像圧縮規格（MPEG-2やMPEG-4）で使われる音声圧縮方式です。サンプリング周波数は最大96kHzまでに対応しています。

DTS Digital Surround

DTS社によって開発されたデジタルサラウンドフォーマットです。低圧縮で高音質となっているのが特徴で、再生チャンネル数は最大5.1チャンネルです。

DTS-ES

DTS Digital Surround にサラウンドバックチャンネルを追加した6.1チャンネルの音声フォーマットです。

従来のDTS 5.1ch対応機器でも再生できます。DTS-ESにはDTS-ES MatrixとDTS-ES Discrete 6.1の2種類の形式があります。

DTS-ES Matrix

DTS 5.1chに追加されるサラウンドバックチャンネル音声の収録を、サラウンドの2チャンネルに振り分けて行い、デコード時にサラウンドバックチャンネル音声を復元して、6.1chを生成します。

DTS-ES Discrete

DTS 5.1chに追加されるサラウンドバックチャンネル音声を、独立して収録します。

DTS Neo:6

DTS社によって開発されたマトリクスデコード技術です。あらゆる2チャンネルソースから最大6.1チャンネルを生成します。映画の再生に適した「DTS Neo:6 CINEMA」モードと音楽の再生に適した「DTS Neo:6 MUSIC」モードがあります。

DTS 96/24

DTS 5.1ch よりもさらに進化した5.1チャンネルデジタル音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24ビットの高音質再生が可能です。従来のDTS 5.1ch対応機器でも再生できます。

DTS－HD Master Audio

DTS社によって開発されたロスレス（可逆型）音声技術により、スタジオマスターと同じ音質を再現できます。サンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24ビットで、最大7.1チャンネルに対応しています。また、7パターンにも及ぶスピーカー配置に対応しており、ユーザー側のさまざまなオーディオ再生環境においてコンテンツ製作者の意図するサウンドを届けることが可能となっています。

DTS-HD High Resolution Audio

それまでのDTSオーディオフォーマットの拡張形式で、サンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24ビットの音声を7.1チャンネルで収録できます。DTS-HD High Resolution Audio を使用して記録したマルチチャンネルサウンドは、DVD-Video の音声に比べて、細部まで鮮明にかつリアルに再生されます。また、7パターンにも及ぶスピーカー配置に対応しており、ユーザー側のさまざまなオーディオ再生環境においてコンテンツ製作者の意図するサウンドを届けることが可能となっています。

DTS-HD Low Bit Rate

DTS-HDのオーディオフォーマットのうち、インターネットなどの通信向けのロービットレートモードです。

HDMI

「High-Definition Multimedia Interface（ハイ-ディフィニション　マルチメディア　インターフェース）」の略称です。DVI (Digital Visual Interface)をベースにさらに発展させた規格で、たった1本のケーブルで非圧縮のデジタル映像とマルチチャンネルデジタル音声を伝送できます。

本機はHDMIの以下のオプション機能に対応しています。

• Deep Color

カラーコンポーネントあたり通常の８ビットを超える10ビットや12ビットの映像信号を伝送することにより、より豊かな階調表現が可能です。

• x.v.Color

sRGB色空間の約1.8倍の多彩な色が再現できます。

• Lip Sync

テレビモニター映像の遅延時間を自動的に取得し、アンプで映像と音声の同期を行います。

DVI

「Digital Visual Interface（デジタル　ビジュアル　インターフェース）」の略称です。PCとディスプレイの接続標準規格です。

HDCP

「High-bandwidth Digital Contents Protection（ハイーバンドウィズ　デジタル　コンテンツ　プロテクション）」の略称です。映像コンテンツが不正にコピーされるのを防ぐ著作権保護技術です。DVIやHDMIのデジタルインターフェースの暗号化に使われています。

保証とアフターサービス

保証について

● 保証書

この製品には、保証書を添付しております。

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● 保証期間

お買上げの日より1年です。

電池や一部の一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。お問い合わせ先は「ケンウッド全国サービス網」をご覧ください。

● 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。

補修用性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。(「ケンウッド全国サービス網」をご参照ください。)

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

● 保証期間中は...

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。

本機以外の原因(衝撃や水分、異物の混入など)による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は...

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください。)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

● 修理料金の仕組み

有料修理の場合は、次の料金をいただきます。

- 技術料:製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代:修理に使用した部品代です。
  その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。
- 出張料:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

ケンウッド全国サービス網

2008年8月現在

使いかたや製品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートサポートセンターをご利用ください。

修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービスセンターにお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北34条東14丁目1-23	☎(011) 743-7740

東北			
仙台サービスセンター	〒984-0011	仙台市若林区六丁の目西町8-1 (斎喜センタービル)	☎(022) 284-1171

関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2 (JA共済埼玉ビル1F)	☎(048) 647-6818
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎(045) 939-6242
新潟サービスセンター	〒950-0923	新潟市中央区姥ヶ山1-5-37	☎(025) 287-7736
目黒サービスセンター (修理持込専用窓口)	〒153-0042 電話でのお問い合わせは、当社カスタマーサポートセンターにて承ります。	目黒区青葉台3-17-9	

中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
静岡サービスセンター	〒420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
金沢サービスセンター	〒920-0036	金沢市元菊町21-87	☎(076) 265-5045

近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスセンター	〒760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413

中国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210

九州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスセンター	〒890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10 (パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスセンター	〒901-2101	浦添市西原4-36-17（（株）物琉2F)	☎(098) 874-9010

● サービスセンターの営業時間のご案内

受付時間 10:00～18:00 (土曜、日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます)
(各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。)

● カスタマーサポートセンター

ナビダイヤル: 0570-010-114 (一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です)
携帯電話、PHS、IP電話からは 045-933-5133
FAX: 045-933-5553
住所: 〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2
受付時間: 月曜～金曜 9:30 ～ 18:00
土曜 9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:30
(日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます)

定格

オーディオ部

ステレオモード
定格出力 (63 Hz ~ 20 kHz、0.7%、6 Ω)......100 W + 100 W
実用最大出力 (JEITA、6 Ω)......130 W + 130 W
サラウンドモード (1ch 動作時)
実用最大出力
フロント......130 W + 130 W (1 kHz、10%、6 Ω)
センター......130 W (1 kHz、10%、6 Ω)
サラウンド......130 W + 130 W (1 kHz、10%、6 Ω)
サラウンドバック......130 W + 130 W (1 kHz、10%、6 Ω)
最大出力
フロント......100 W + 100 W (1 kHz、0.7%、6 Ω)
センター......100 W (1 kHz、0.7%、6 Ω)
サラウンド......100 W + 100 W (1 kHz、0.7%、6 Ω)
サラウンドバック......100 W + 100 W (1 kHz、0.7%、6 Ω)
全高調波歪率......0.009% (1 kHz、50 W、6 Ω)
周波数特性
CD......10 Hz ~ 100 kHz, + 0 dB ~ -3 dB
SN比 (IHF'66)
CD......105 dB (JEITA)
入力端子 (感度/インピーダンス)
CD、MD/TAPE、AUX、VIDEO 1、VIDEO 2......550 mV / 25 kΩ
AV AUX......550 mV / 25 kΩ
DVD/6CH INPUT......550 mV / 25 kΩ
出力端子 (レベル/インピーダンス)
MD/TAPE, VIDEO 1......500 mV / 1 kΩ
サブウーファープリアウト......1.3 V / 2.2 kΩ
トーン コントロール特性
BASS......±9 dB (100 Hz)
TREBLE......±9 dB (10 kHz)

デジタルオーディオ部

入力端子
光......CD、VIDEO2
同軸......DVD

ビデオ部

ビデオフォーマット (ビデオコンバージョン)......NTSC / PAL
ビデオ入力感度/インピーダンス (DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AV AUX)
ビデオ (コンポジット)......1 Vp-p / 75 Ω
ビデオ出力レベル/インピーダンス (VIDEO1、モニター)
ビデオ (コンポジット)......1 Vp-p / 75 Ω
S-ビデオ入力感度/インピーダンス (DVD、VIDEO 2)
Y-信号......1 Vp-p / 75 Ω
C-信号......0.286 Vp-p / 75 Ω
S-ビデオ出力レベル/インピーダンス (モニター)
Y-信号......1 Vp-p / 75 Ω
C-信号......0.286 Vp-p / 75 Ω
D端子入力感度/インピーダンス (DVD、VIDEO 1、VIDEO 2)
Y-信号......1 Vp-p / 75 Ω
CB/CR-信号......0.7 Vp-p / 75 Ω
D端子出力レベル/インピーダンス (モニター)
Y-信号......1 Vp-p / 75 Ω
CB/CR-信号......0.7 Vp-p / 75 Ω

HDMI部

HDMI入力端子......DVD、VIDEO2
HDMI出力端子......モニター

iPod部

最大供給電源......DC 5 V / 500 mA

FM チューナー部

受信周波数範囲......76 MHz ~ 90 MHz

AM チューナー部

受信周波数範囲......531 kHz ~ 1,629 kHz

電源部・その他

定格消費電力 (電気用品安全法に基づく表示)......275 W
待機時消費電力 (HDMIリンク オフ時)......0.2 W以下
最大外形寸法......幅 : 440 mm
......高さ : 166 mm
......奥行 : 394 mm
重量 (正味)......11.0 kg

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

1. これらの定格およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い (水が凍るような) 場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

お電話による使いかた・商品に関するご相談

カスタマーサポートセンター

受付時間　月曜日～金曜日　**9:30 ～ 18:00**
　　　　　土曜日　　　　　**9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:30**
　　　　　※日曜、祝日及び当社休日を除く

※一般電話･公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

- 携帯電話、PHS、IP 電話からは **045-933-5133**
- FAX　**045-933-5553**

修理などアフターサービスについて

お買い上げの販売店か、「**ケンウッド全国サービス網**」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3